

# 平成26年臨床研修修了者アンケート調査 結果（概要）

# 平成26年臨床研修修了者アンケート調査結果

## <調査概要>

対象者：平成26年3月末までに臨床研修を修了予定研修医7,534名（平成24年4月研修開始）

調査方法：厚生労働省より自記式質問票を送付、地方厚生局へ提出。

アンケートを2種類用意し、共通項目とアンケートごとに異なる質問項目を設ける形式とした。

調査期間：平成26年3月1日～3月末日（地方厚生局への提出期限 平成26年4月21日）

## <回収状況>

配布対象者	回収数	回収率
7,534	5,905 (アンケート①4,531 ②1,374)	78.4%
(参考H25) 7,545	5,735	76.0%

※アンケート②は5名に1名の割合で選定した研修医に配布、アンケート①はその他の研修医に配布（研修医が4名以下の場合は1名選定してアンケート②を配布）

※以下、(参考H25)とあるのは、昨年の調査結果（平成25年3月研修修了者対象）

## <回答者の基本属性>

### 【性別】

男性		女性		無回答	
人数	割合	人数	割合	人数	割合
3,911	66.2%	1,807	30.6%	187	3.2%

### 【臨床研修を行った病院】

病院の種別	人数	割合	(参考H25)
大学病院	2,299	38.9%	43.5%
臨床研修病院	2,949	49.9%	54.1%
無回答	657	11.1%	2.4%

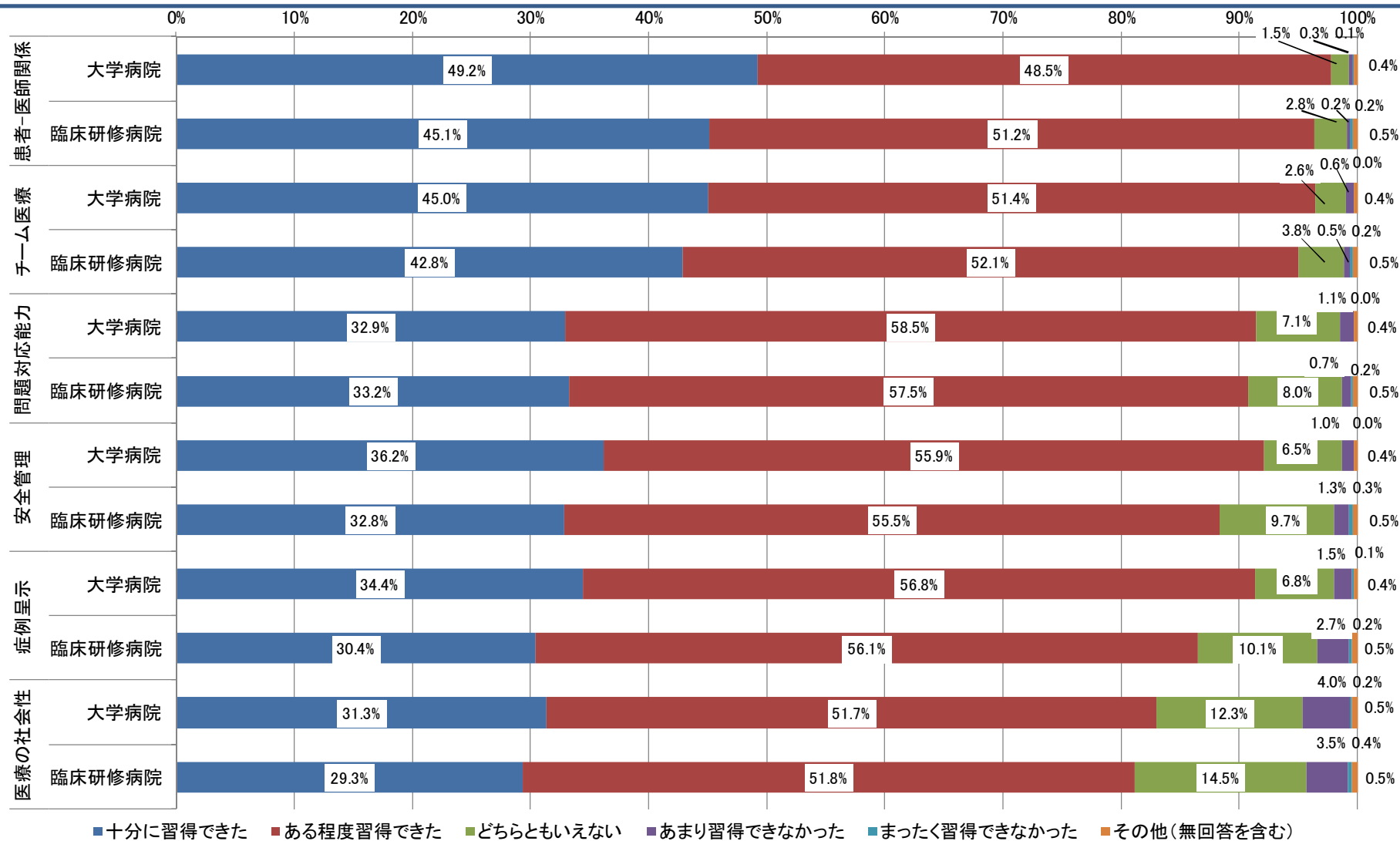
### 【出身大学・臨床研修を行った主たる病院の所在地】

地域	出身大学の所在地		臨床研修を行った主たる病院の所在地	
	人数	割合	人数	割合
北海道	197	3.3%	195	3.3%
東北	425	7.2%	344	5.8%
関東信越	2,019	34.2%	2,246	38.0%
東海北陸	788	13.3%	773	13.1%
近畿	914	15.5%	1,042	17.6%
中国・四国	683	11.6%	509	8.6%
九州	822	13.9%	763	12.9%
海外の医学校	16	0.3%	2	0.0%
無回答	41	0.7%	31	0.5%

# 臨床研修の実施状況等について

# 臨床研修の到達目標における各「行動目標」の習得状況

○行動目標(医療人として必要な基本姿勢・態度)について、「十分に習得できた」「ある程度習得できた」と答えた研修医の割合は8割を超えている。

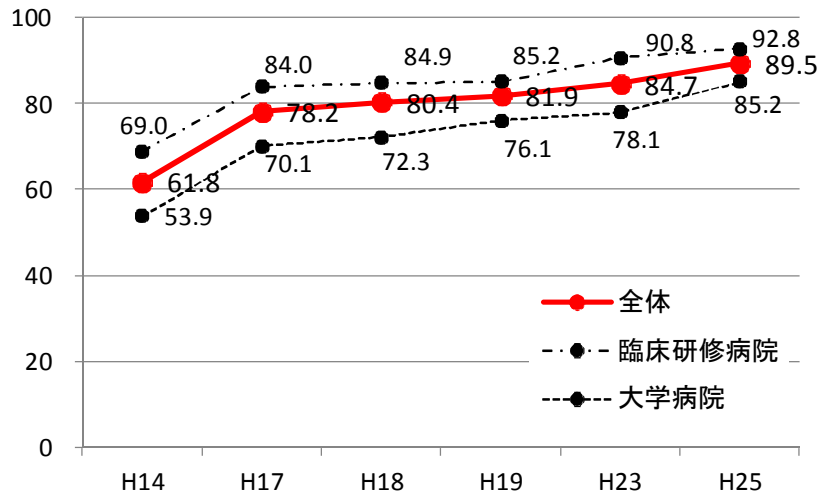


※ アンケート①のみの調査項目であり、回答者数は「大学病院」が1,821名、「臨床研修病院」が2,211名

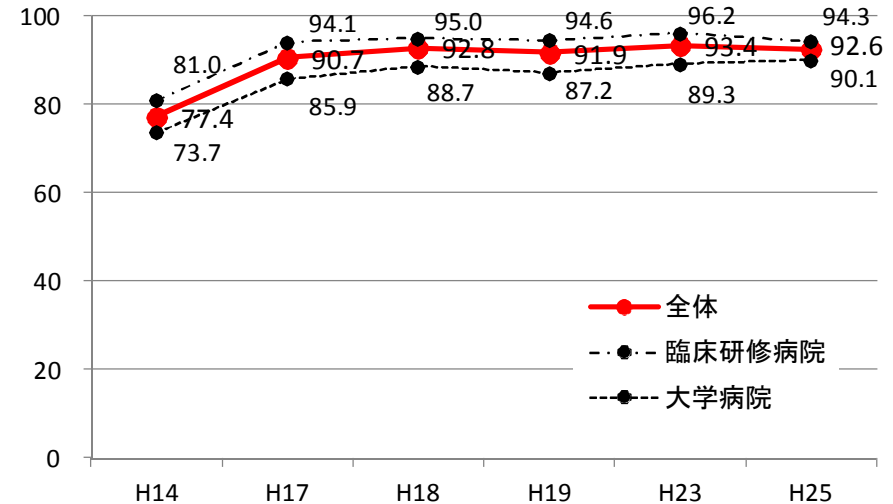
# 研修医の基本的な診療能力についての経年的評価

○基本的な臨床知識・技術等について、「自信をもってできる」「できる」と答えた研修医の割合は、全体的に年々上昇。

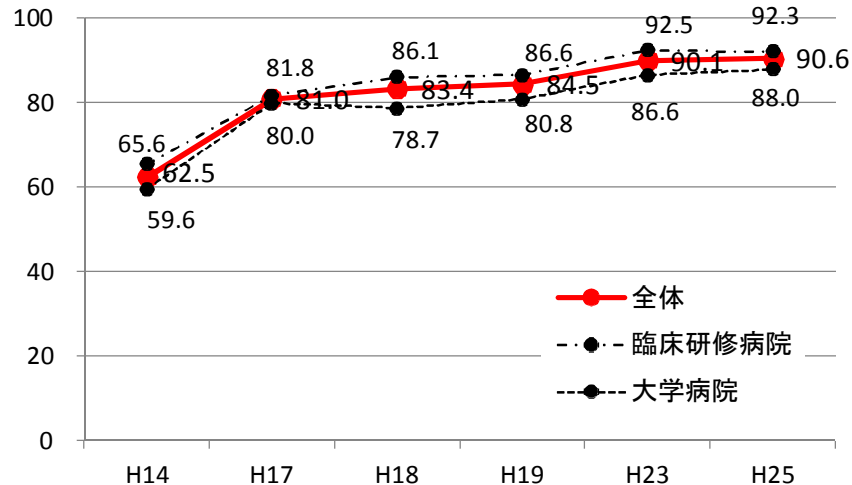
救急患者の重症度および緊急度を判断できる



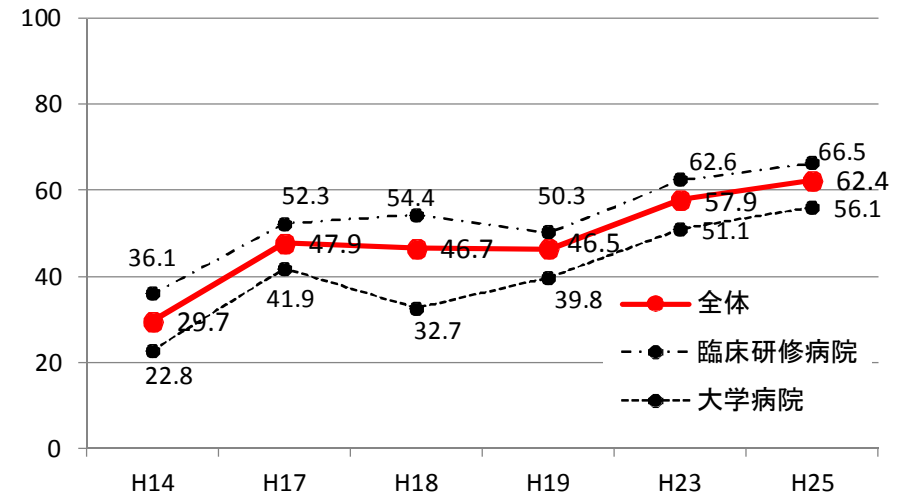
気管挿管ができる



頭部MRI検査の適応が判断でき、脳梗塞を判定できる



骨折、脱臼、捻挫の鑑別診断ができる

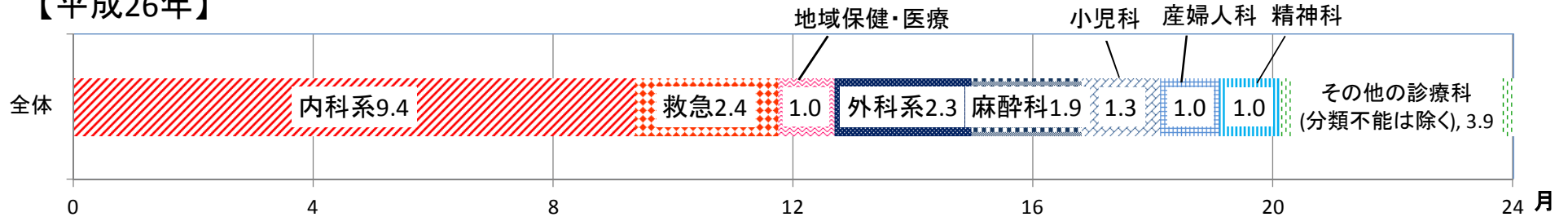


# 各診療科の平均研修期間

○平均の研修期間は、内科系が最も長く9.4月であり、外科系、麻酔科は約2月、小児科、産婦人科、精神科は約1月である。

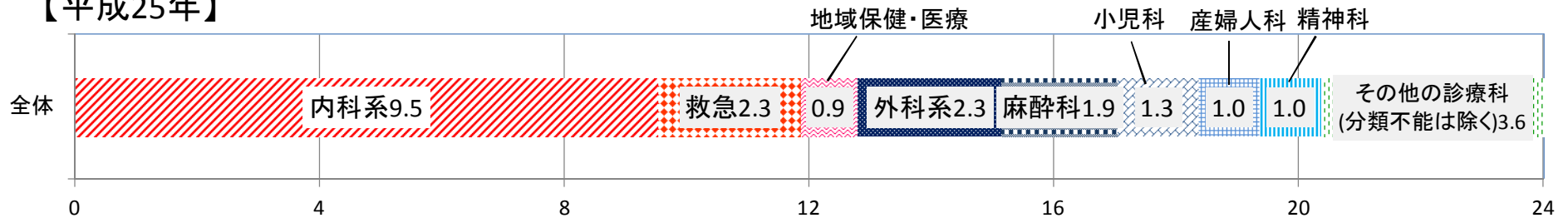
## 研修医の各診療科における平均研修期間(月数)

【平成26年】

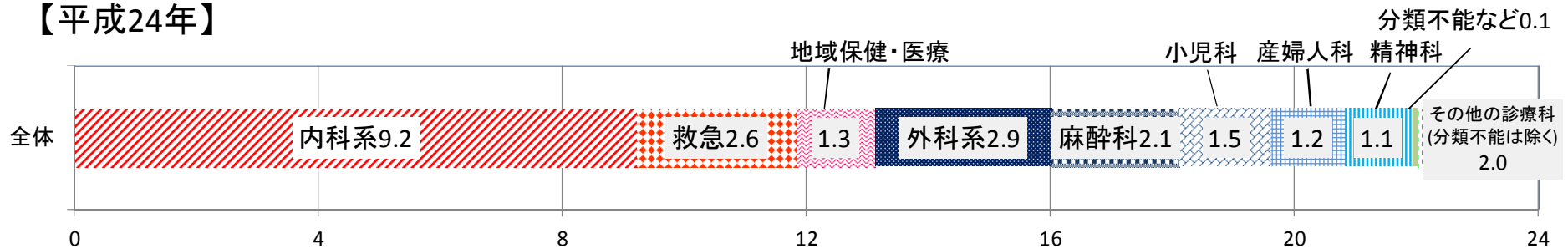


(参考)

【平成25年】



【平成24年】



内科系……内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、神経内科、糖尿病内科、血液内科、アレルギー科、リウマチ科、感染症内科、心療内科

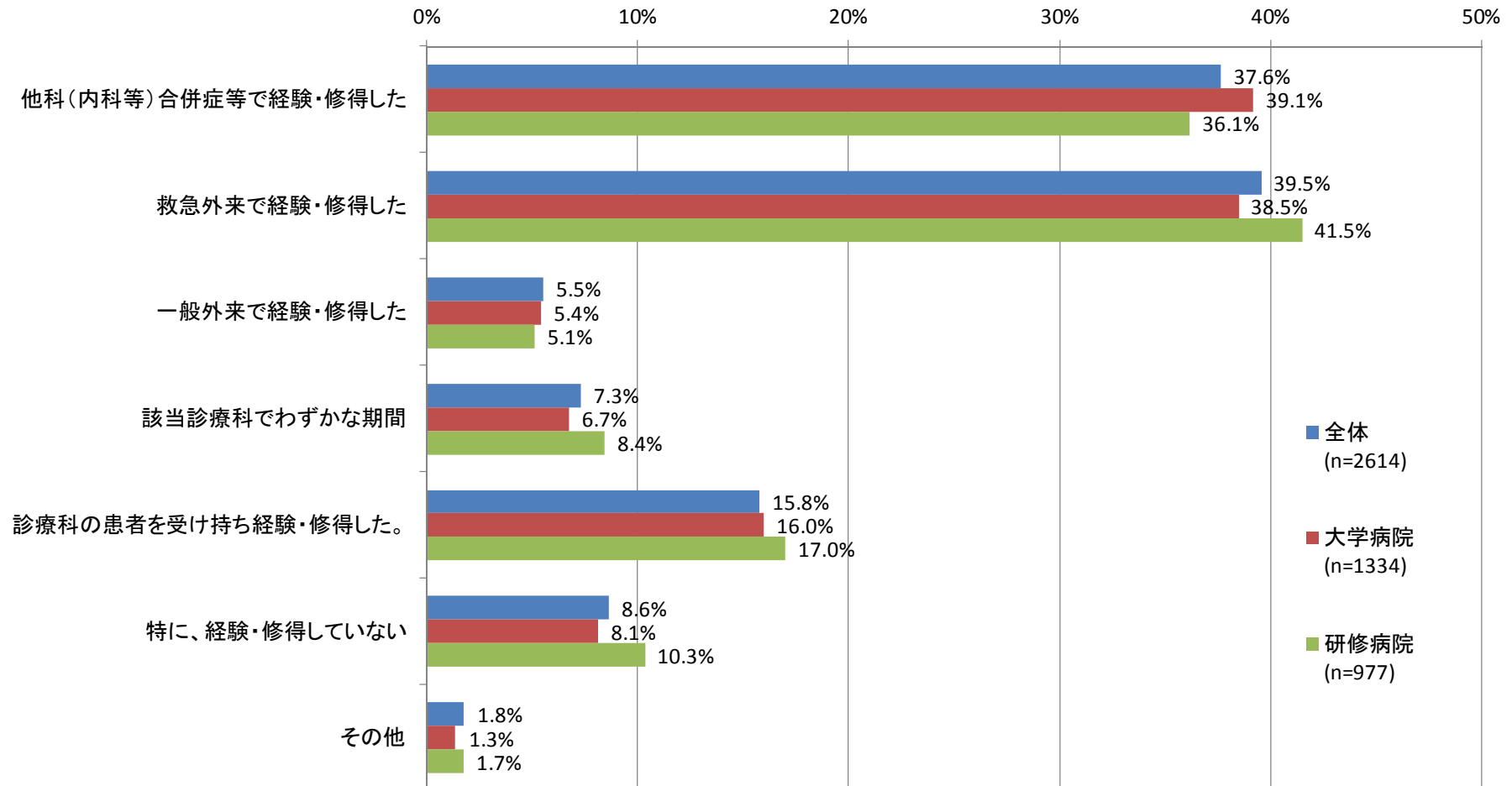
外科系……外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科、小児外科

産婦人科…産婦人科、産科、婦人科

その他……放射線科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、耳鼻咽喉科 等

## 到達目標の経験・修得方法

研修診療科に、外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科のいずれかが含まれていない場合、到達目標に定められた当該診療科の症例等に関する経験・修得方法(複数回答)

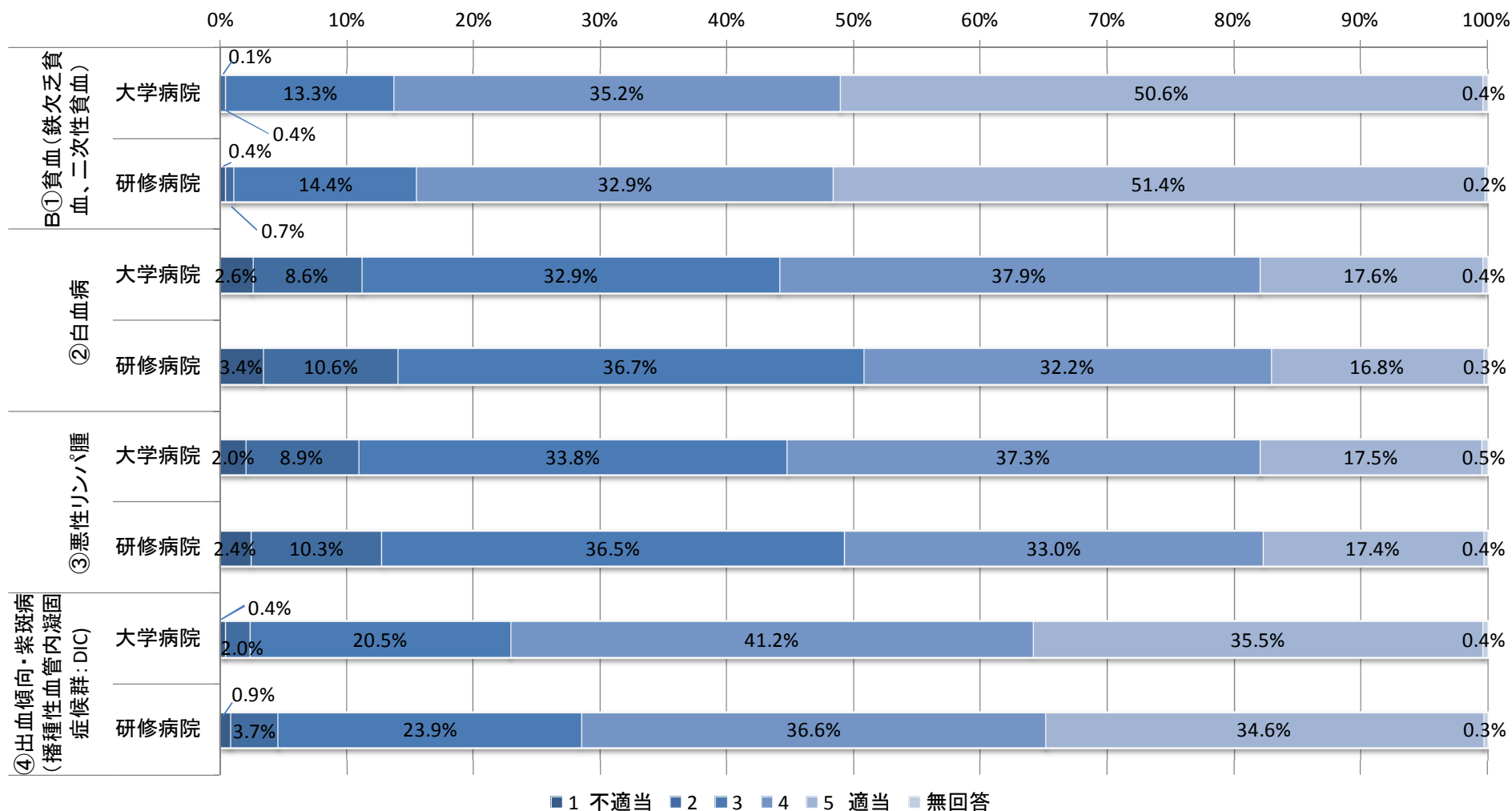


※ アンケート①のみの調査項目であり、研修診療科に、外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科のいずれかが含まれていない(不明も含む)者が回答。

# 到達目標「経験が求められる疾患・病態」に関する評価

到達目標「経験が求められる疾患・病態」の各項目について、基本的な診療能力の観点から、適当(役に立つ、意義深い)と思うか回答。

## (1) 血液・造血器・リンパ網内系疾患



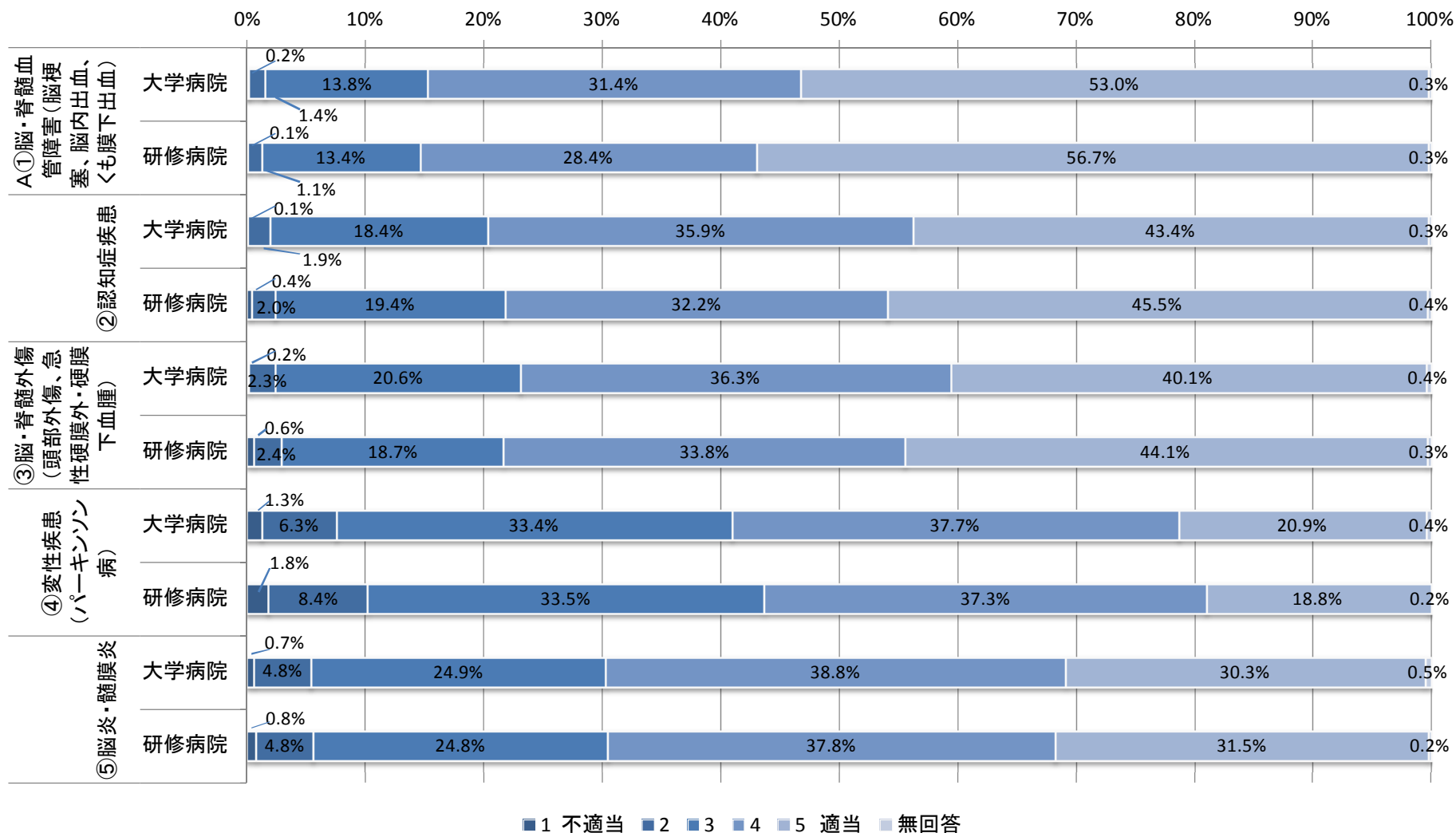
※ アンケート①のみの調査項目であり、回答者数は「大学病院」が1,821名、「臨床研修病院」が2,211名



# 到達目標「経験が求められる疾患・病態」に関する評価

到達目標「経験が求められる疾患・病態」の各項目について、基本的な診療能力の観点から、適当(役に立つ、意義深い)と思うか回答。

## (2) 神経系疾患

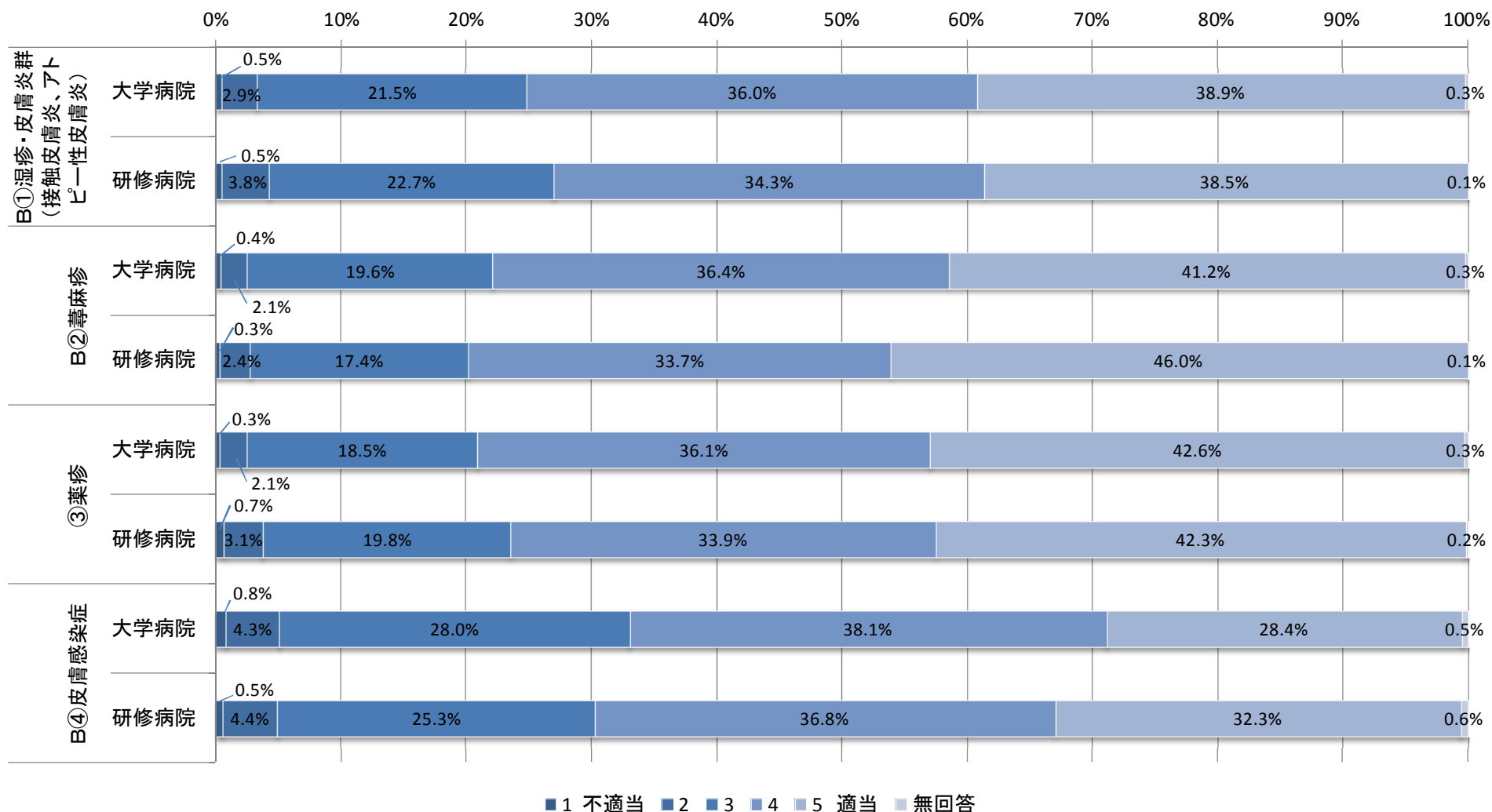


※ アンケート①のみの調査項目であり、回答者数は「大学病院」が1,821名、「臨床研修病院」が2,211名

# 到達目標「経験が求められる疾患・病態」に関する評価

到達目標「経験が求められる疾患・病態」の各項目について、基本的な診療能力の観点から、適当(役に立つ、意義深い)と思うか回答。

## (3) 皮膚系疾患

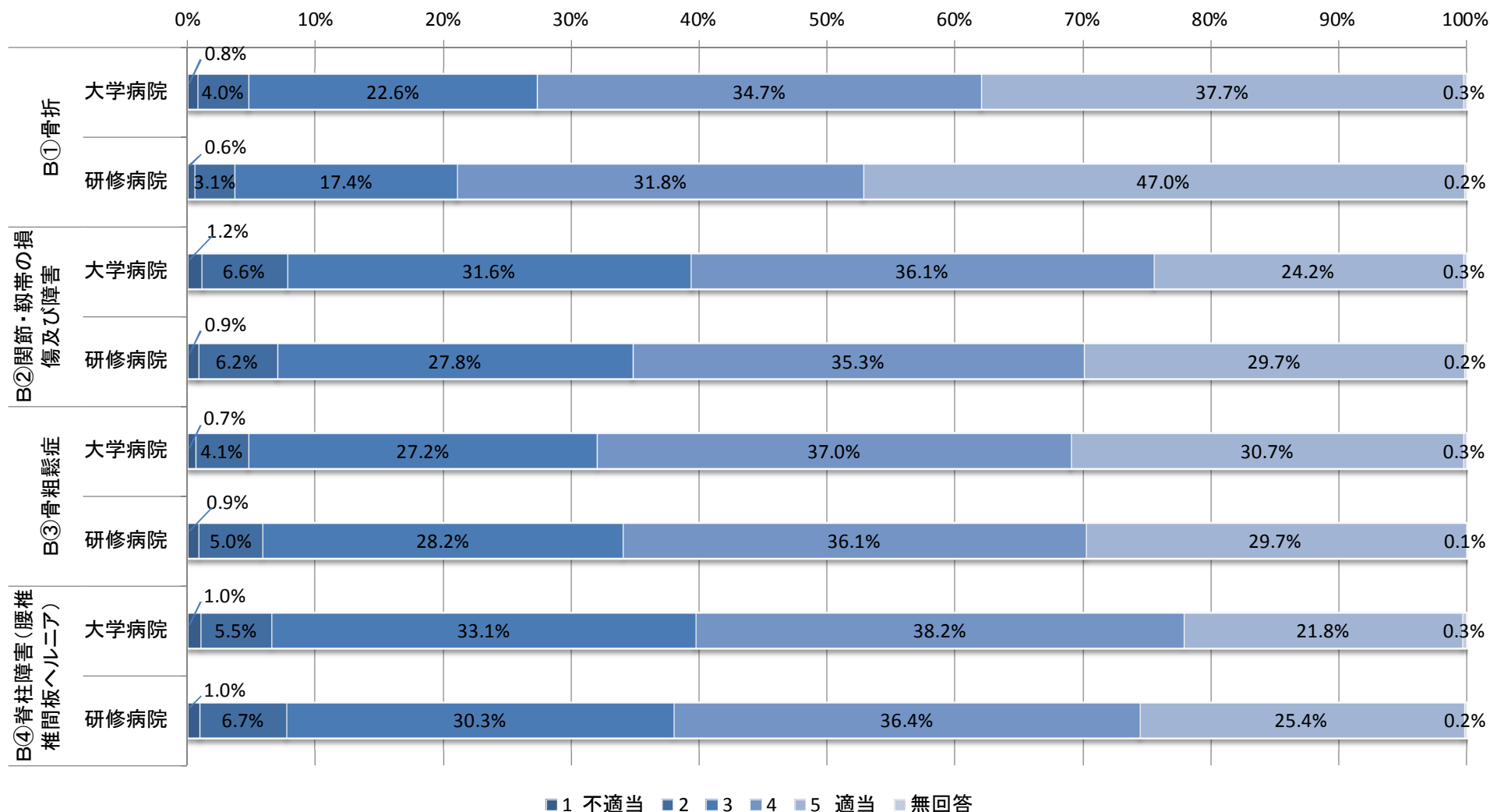


※ アンケート①のみの調査項目であり、回答者数は「大学病院」が1,821名、「臨床研修病院」が2,211名

# 到達目標「経験が求められる疾患・病態」に関する評価

到達目標「経験が求められる疾患・病態」の各項目について、基本的な診療能力の観点から、適当(役に立つ、意義深い)と思うか回答。

## (4)運動器(筋骨格)系疾患

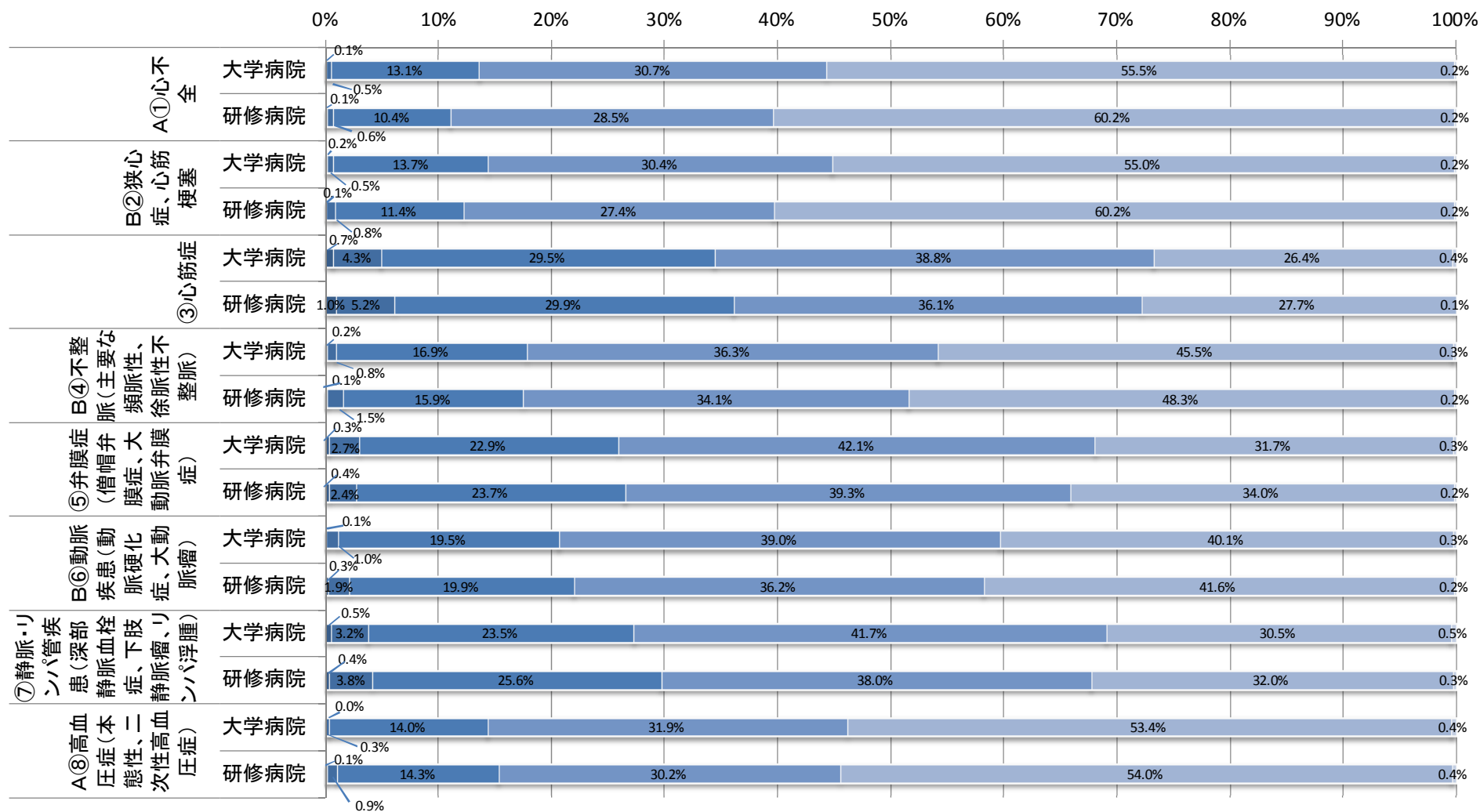


※ アンケート①のみの調査項目であり、回答者数は「大学病院」が1,821名、「臨床研修病院」が2,211名

# 到達目標「経験が求められる疾患・病態」に関する評価

到達目標「経験が求められる疾患・病態」の各項目について、基本的な診療能力の観点から、適当(役に立つ、意義深い)と思うか回答。

## (5) 循環器系疾患



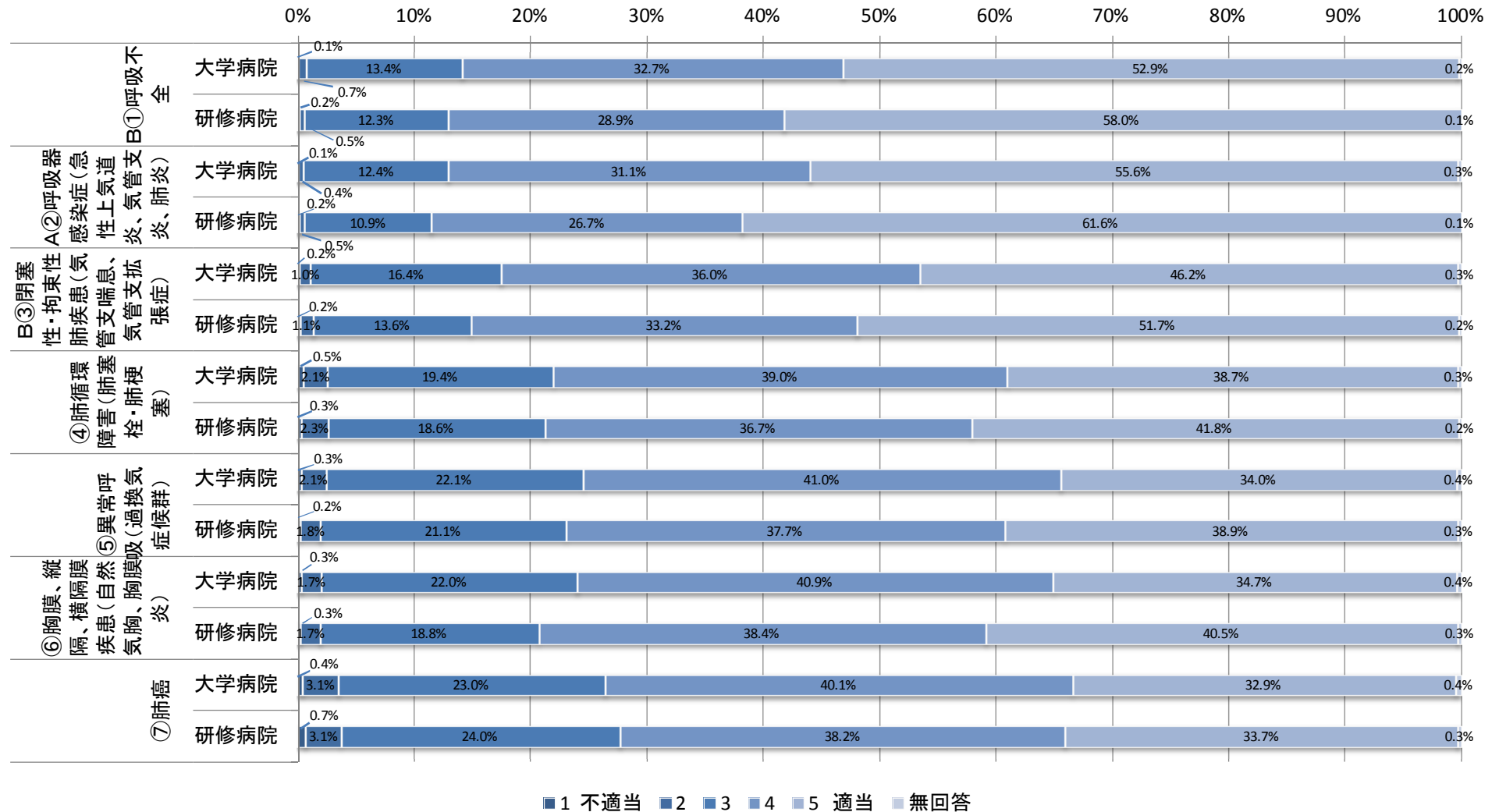
■ 1 不適当 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 適当 ■ 無回答

※ アンケート①のみの調査項目であり、回答者数は「大学病院」が1,821名、「臨床研修病院」が2,211名

# 到達目標「経験が求められる疾患・病態」に関する評価

到達目標「経験が求められる疾患・病態」の各項目について、基本的な診療能力の観点から、適当(役に立つ、意義深い)と思うか回答。

## (6)呼吸器系疾患

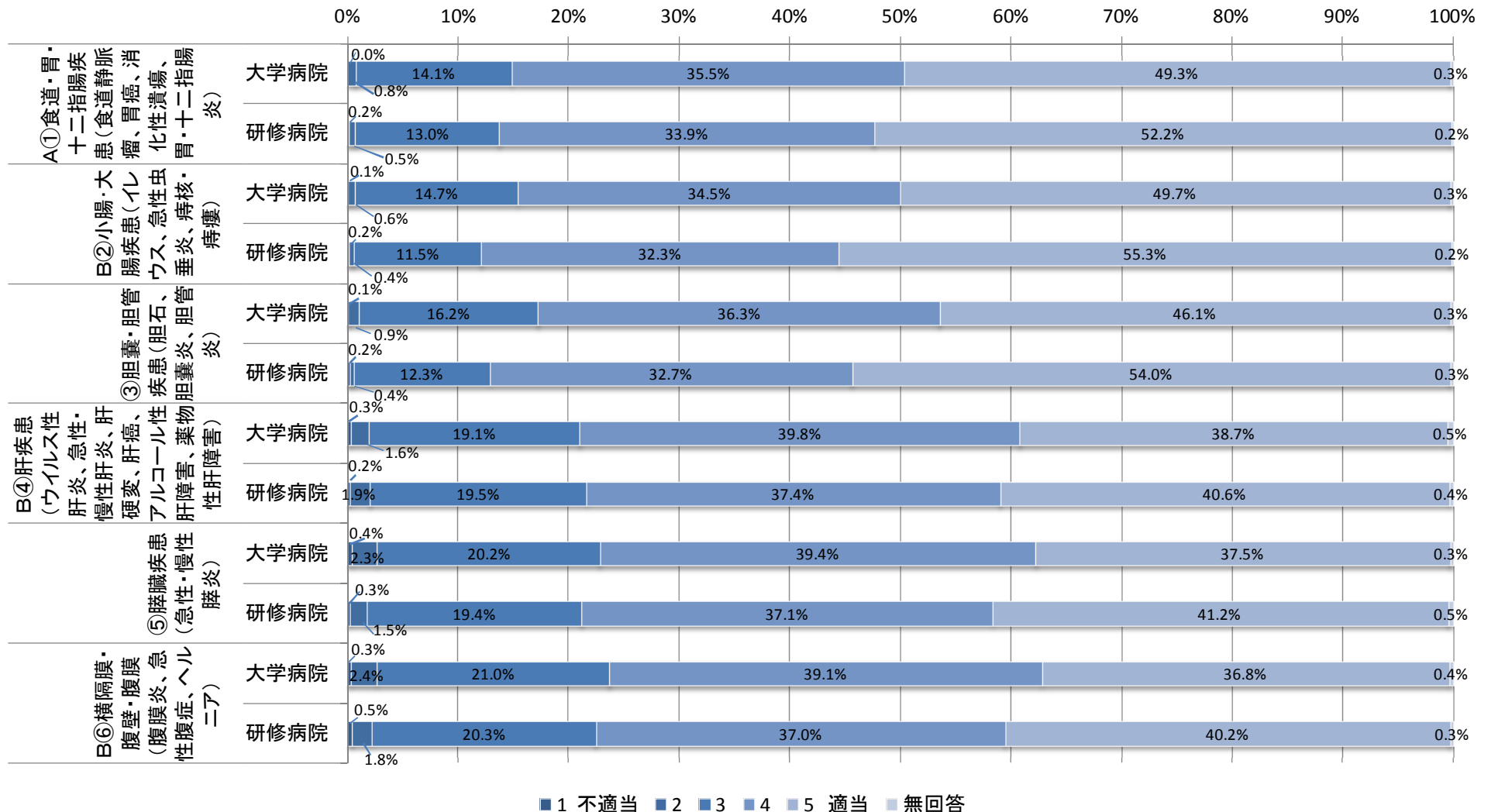


※ アンケート①のみの調査項目であり、回答者数は「大学病院」が1,821名、「臨床研修病院」が2,211名

# 到達目標「経験が求められる疾患・病態」に関する評価

到達目標「経験が求められる疾患・病態」の各項目について、基本的な診療能力の観点から、適当(役に立つ、意義深い)と思うか回答。

## (7) 消化器系疾患

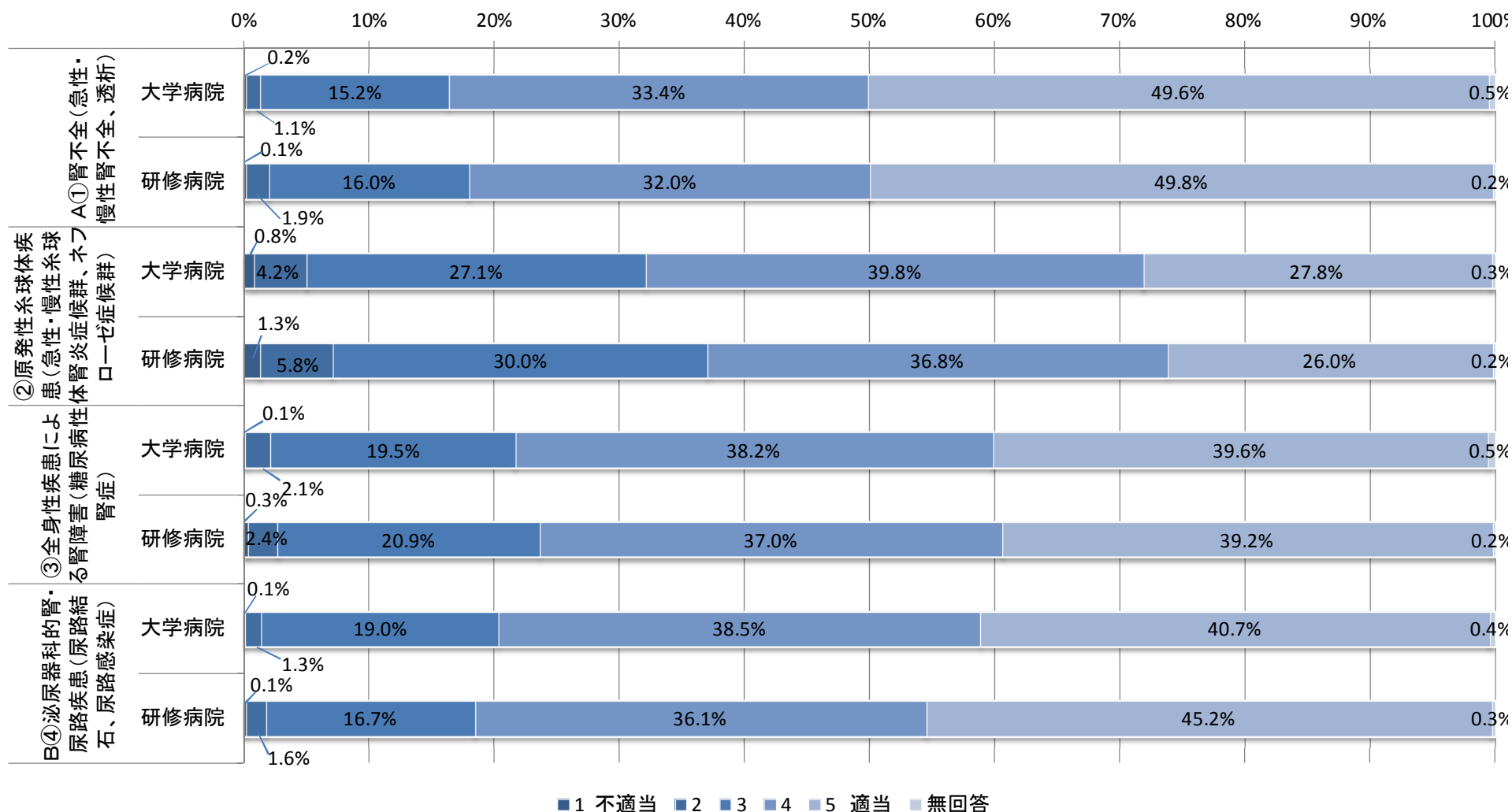


※ アンケート①のみの調査項目であり、回答者数は「大学病院」が1,821名、「臨床研修病院」が2,211名

# 到達目標「経験が求められる疾患・病態」に関する評価

到達目標「経験が求められる疾患・病態」の各項目について、基本的な診療能力の観点から、適当(役に立つ、意義深い)と思うか回答。

## (8) 腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む。)疾患

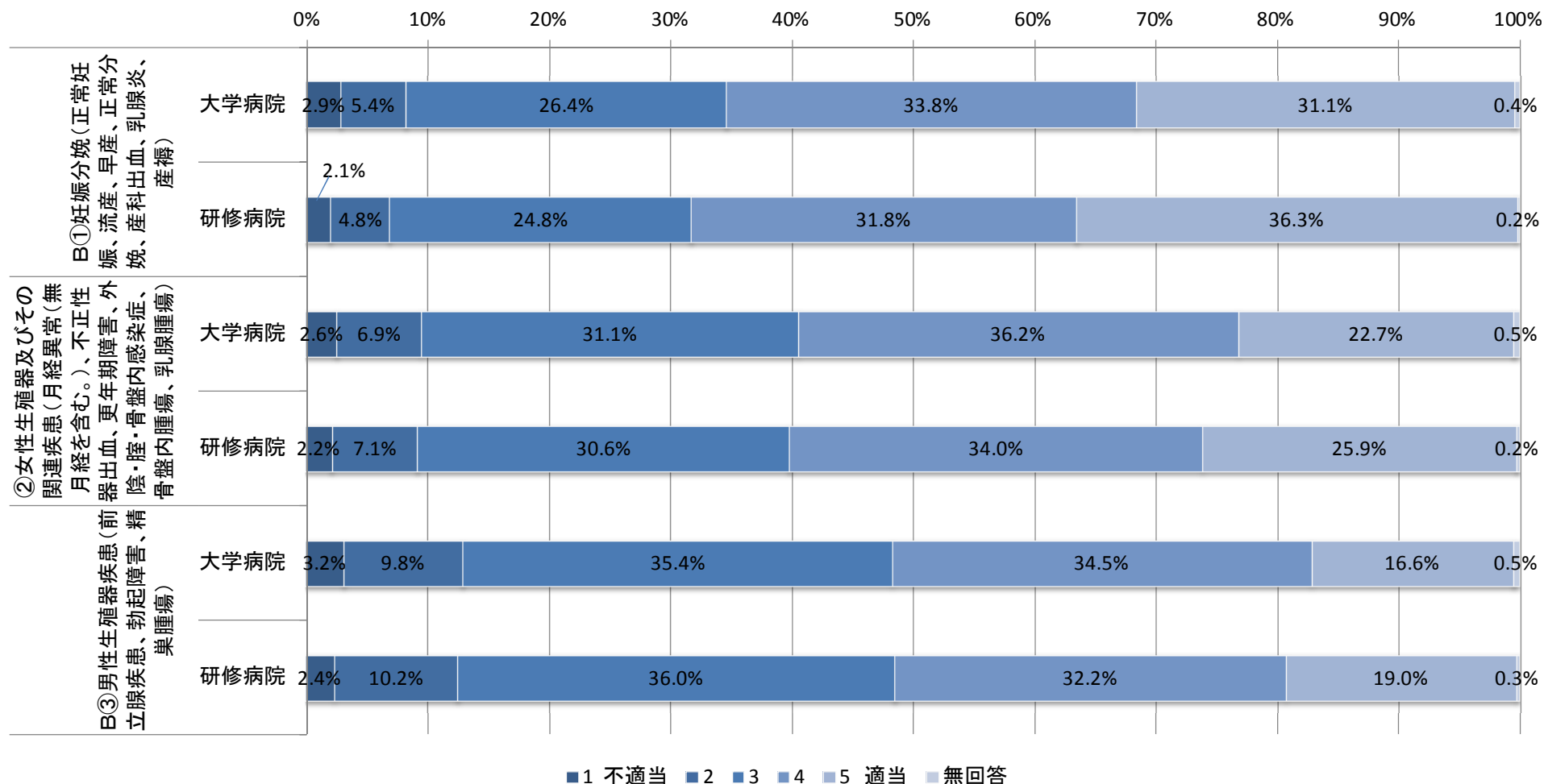


※ アンケート①のみの調査項目であり、回答者数は「大学病院」が1,821名、「臨床研修病院」が2,211名

# 到達目標「経験が求められる疾患・病態」に関する評価

到達目標「経験が求められる疾患・病態」の各項目について、基本的な診療能力の観点から、適当(役に立つ、意義深い)と思うか回答。

## (9) 妊娠分娩と生殖器疾患



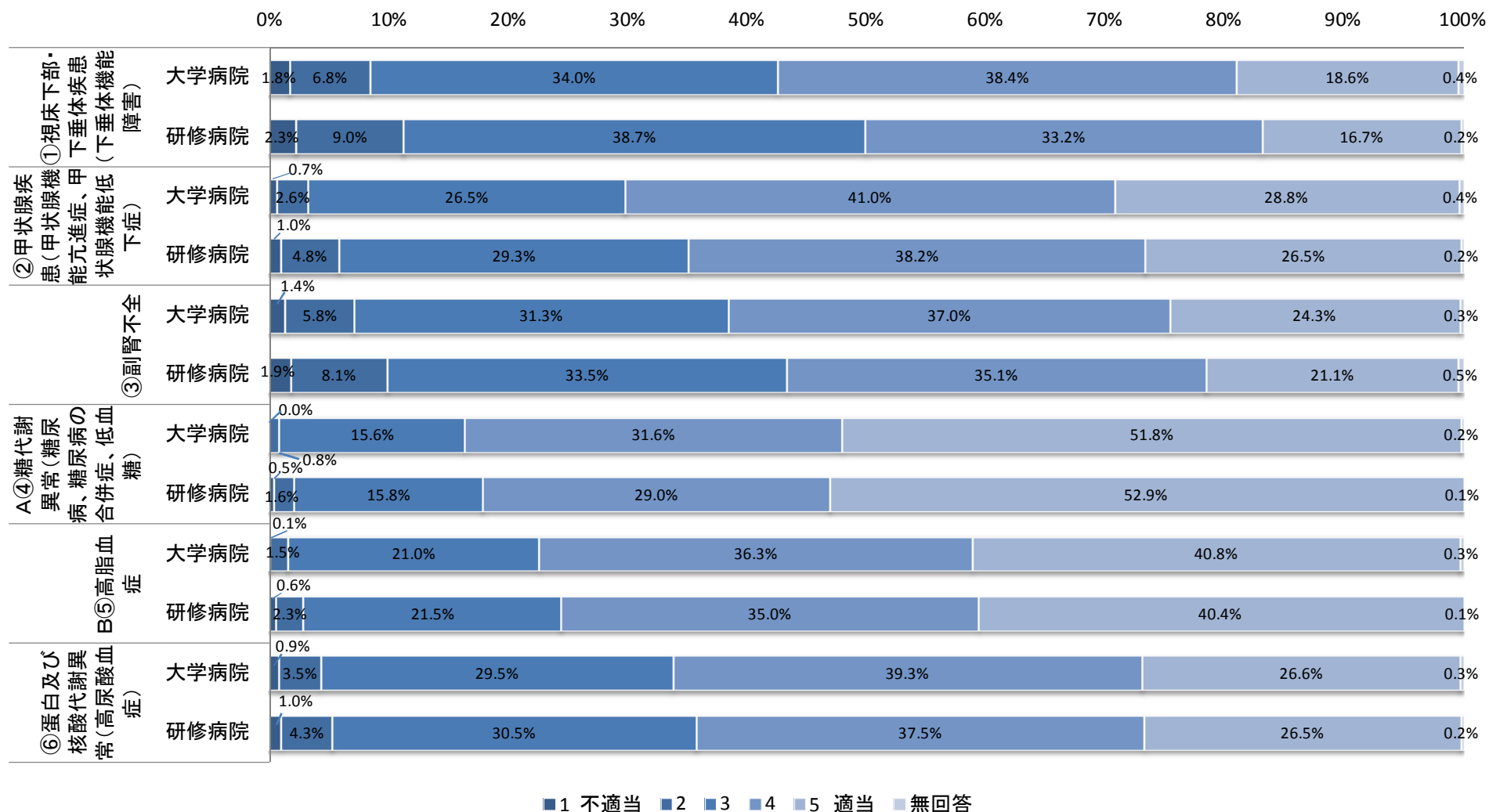
※ アンケート①のみの調査項目であり、回答者数は「大学病院」が1,821名、「臨床研修病院」が2,211名



# 到達目標「経験が求められる疾患・病態」に関する評価

到達目標「経験が求められる疾患・病態」の各項目について、基本的な診療能力の観点から、適当(役に立つ、意義深い)と思うか回答。

## (10) 内分泌・栄養・代謝系疾患

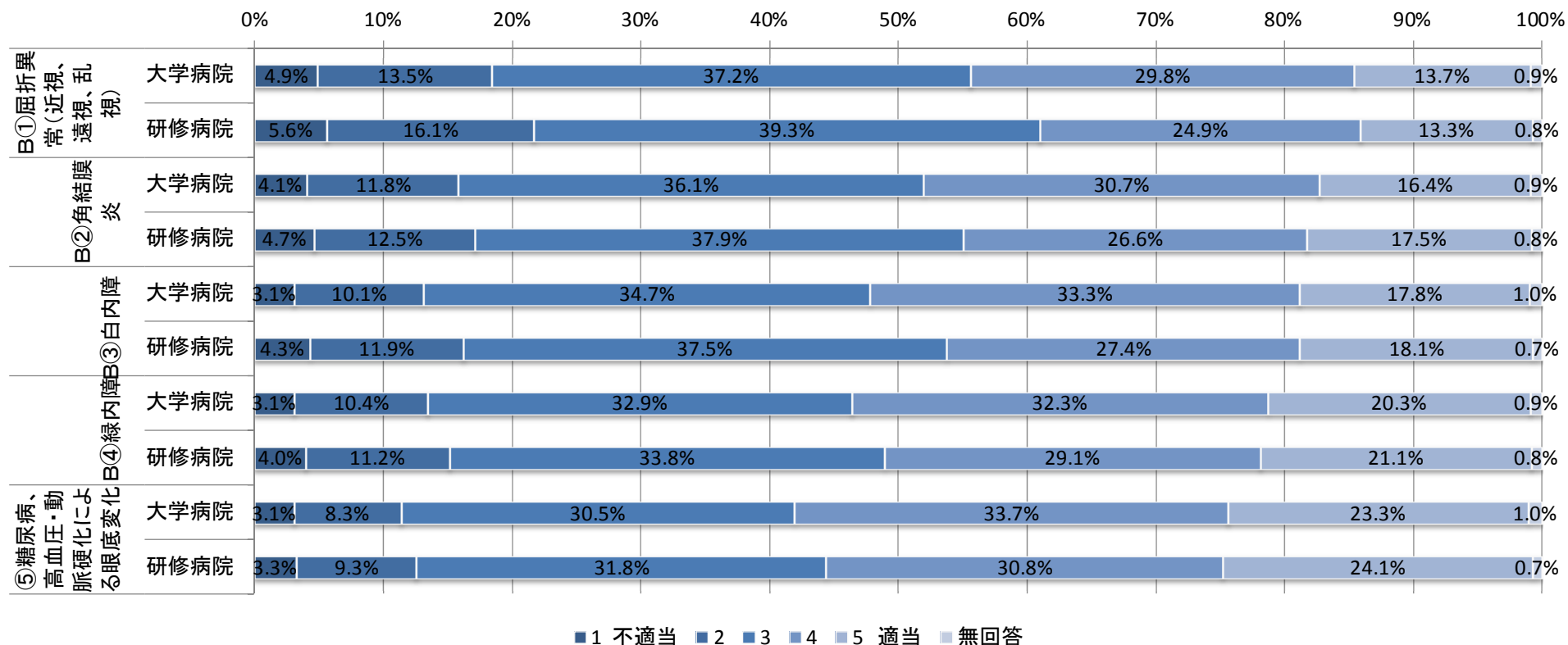


※ アンケート①のみの調査項目であり、回答者数は「大学病院」が1,821名、「臨床研修病院」が2,211名

# 到達目標「経験が求められる疾患・病態」に関する評価

到達目標「経験が求められる疾患・病態」の各項目について、基本的な診療能力の観点から、適当(役に立つ、意義深い)と思うか回答。

## (11)眼・視覚系疾患

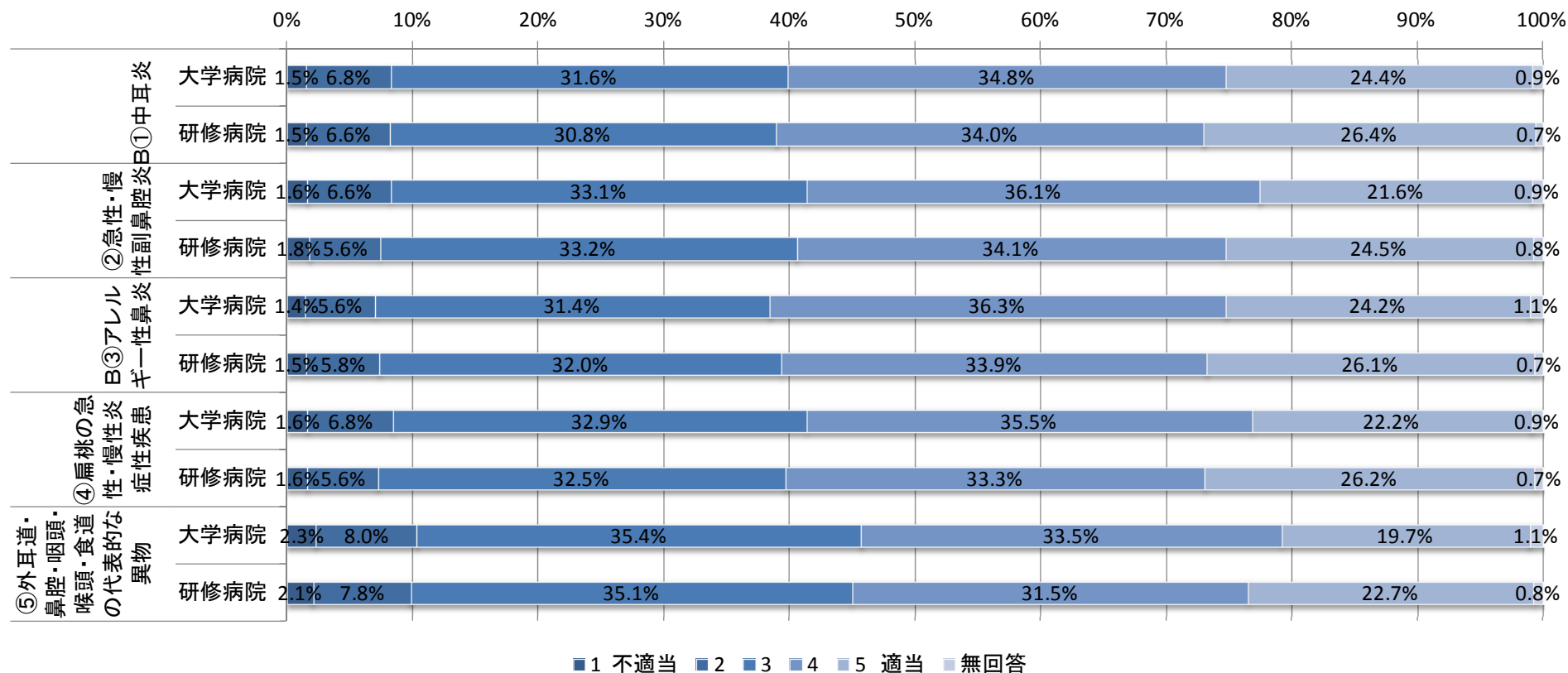


※ アンケート①のみの調査項目であり、回答者数は「大学病院」が1,821名、「臨床研修病院」が2,211名

# 到達目標「経験が求められる疾患・病態」に関する評価

到達目標「経験が求められる疾患・病態」の各項目について、基本的な診療能力の観点から、適当(役に立つ、意義深い)と思うか回答。

## (12) 耳鼻・咽喉・口腔系疾患

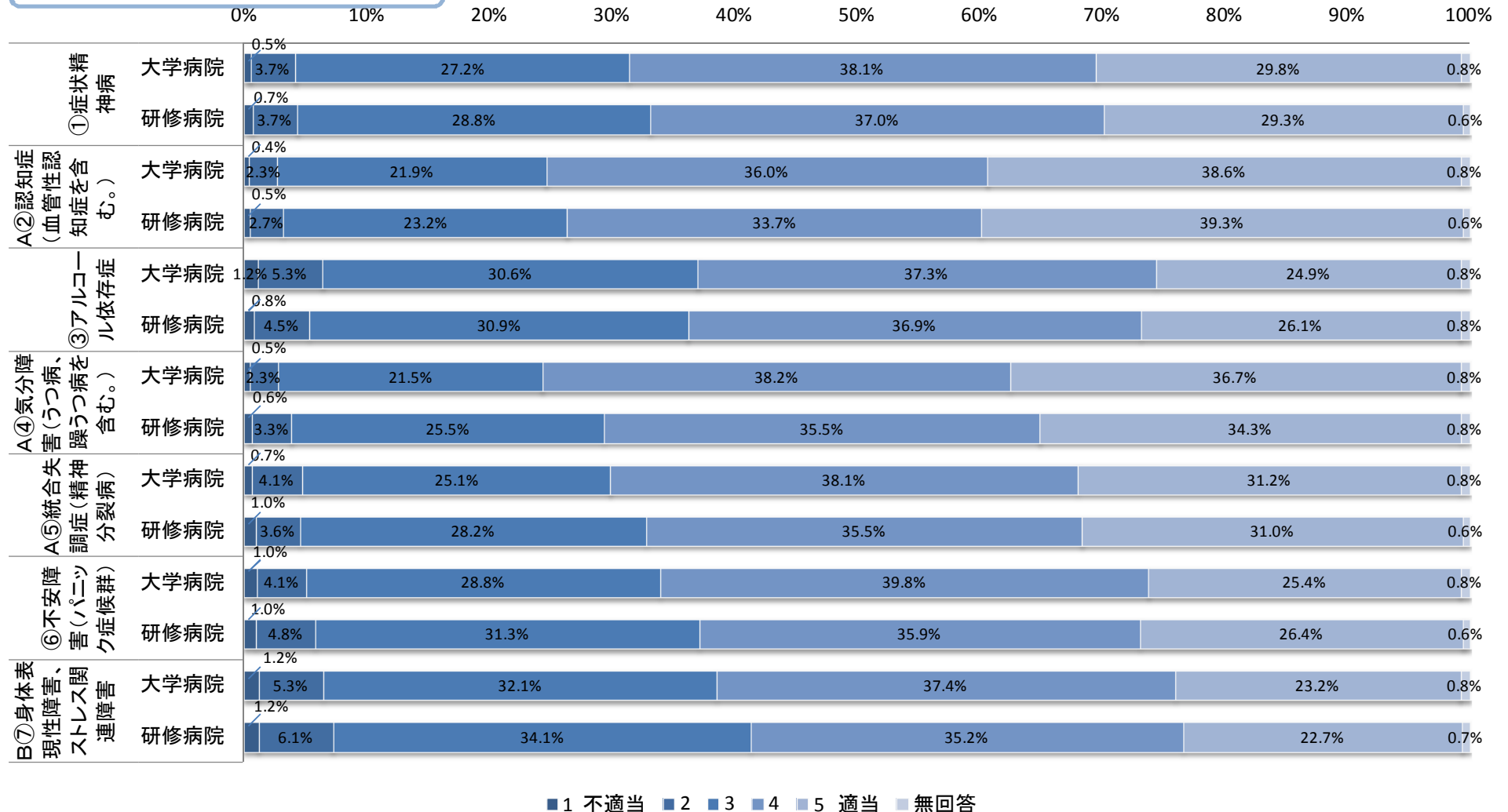


※ アンケート①のみの調査項目であり、回答者数は「大学病院」が1,821名、「臨床研修病院」が2,211名

# 到達目標「経験が求められる疾患・病態」に関する評価

到達目標「経験が求められる疾患・病態」の各項目について、基本的な診療能力の観点から、適当(役に立つ、意義深い)と思うか回答。

## (13)精神・神経系疾患

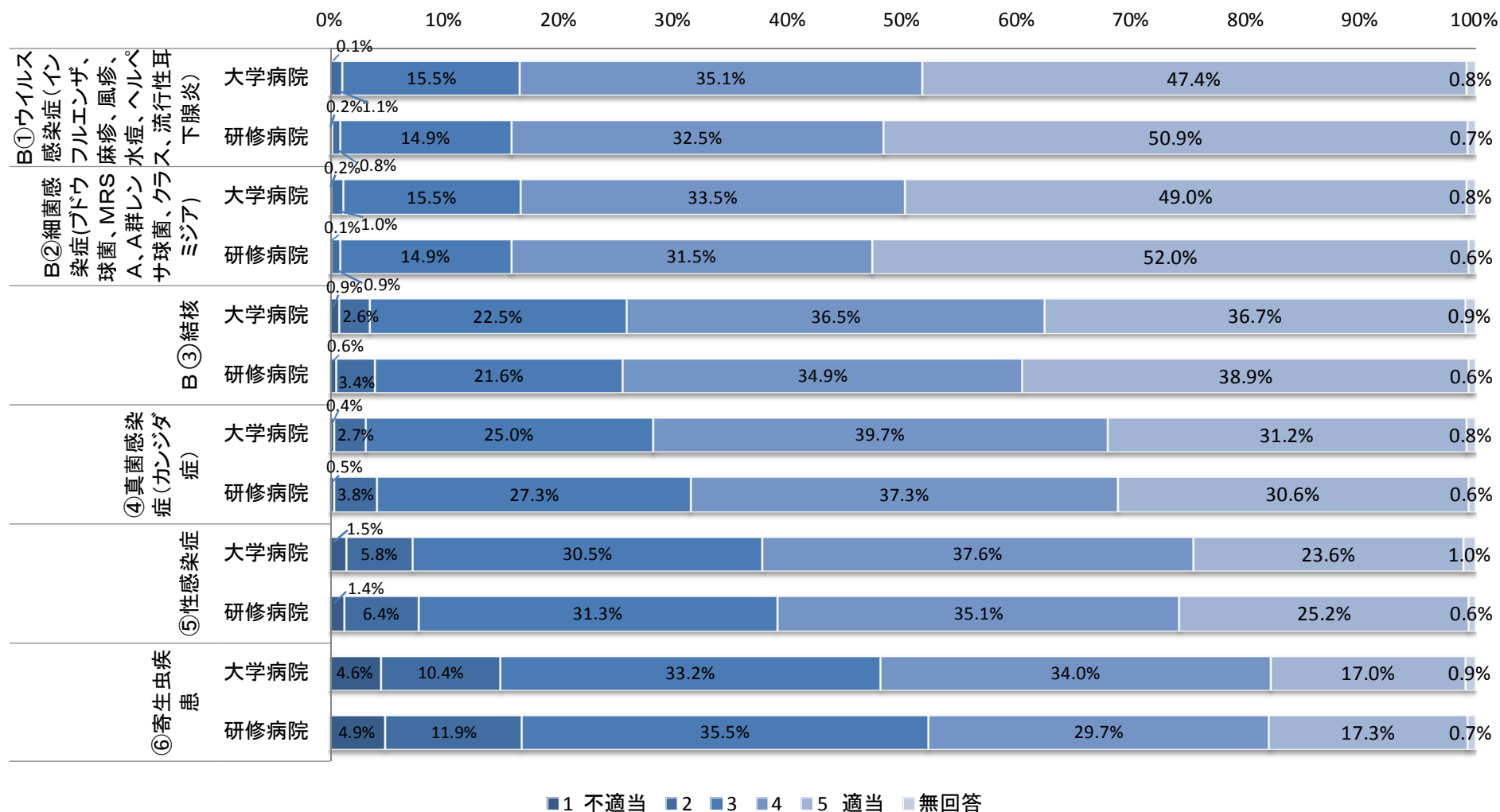


※ アンケート①のみの調査項目であり、回答者数は「大学病院」が1,821名、「臨床研修病院」が2,211名

# 到達目標「経験が求められる疾患・病態」に関する評価

到達目標「経験が求められる疾患・病態」の各項目について、基本的な診療能力の観点から、適当(役に立つ、意義深い)と思うか回答。

## (14) 感染症

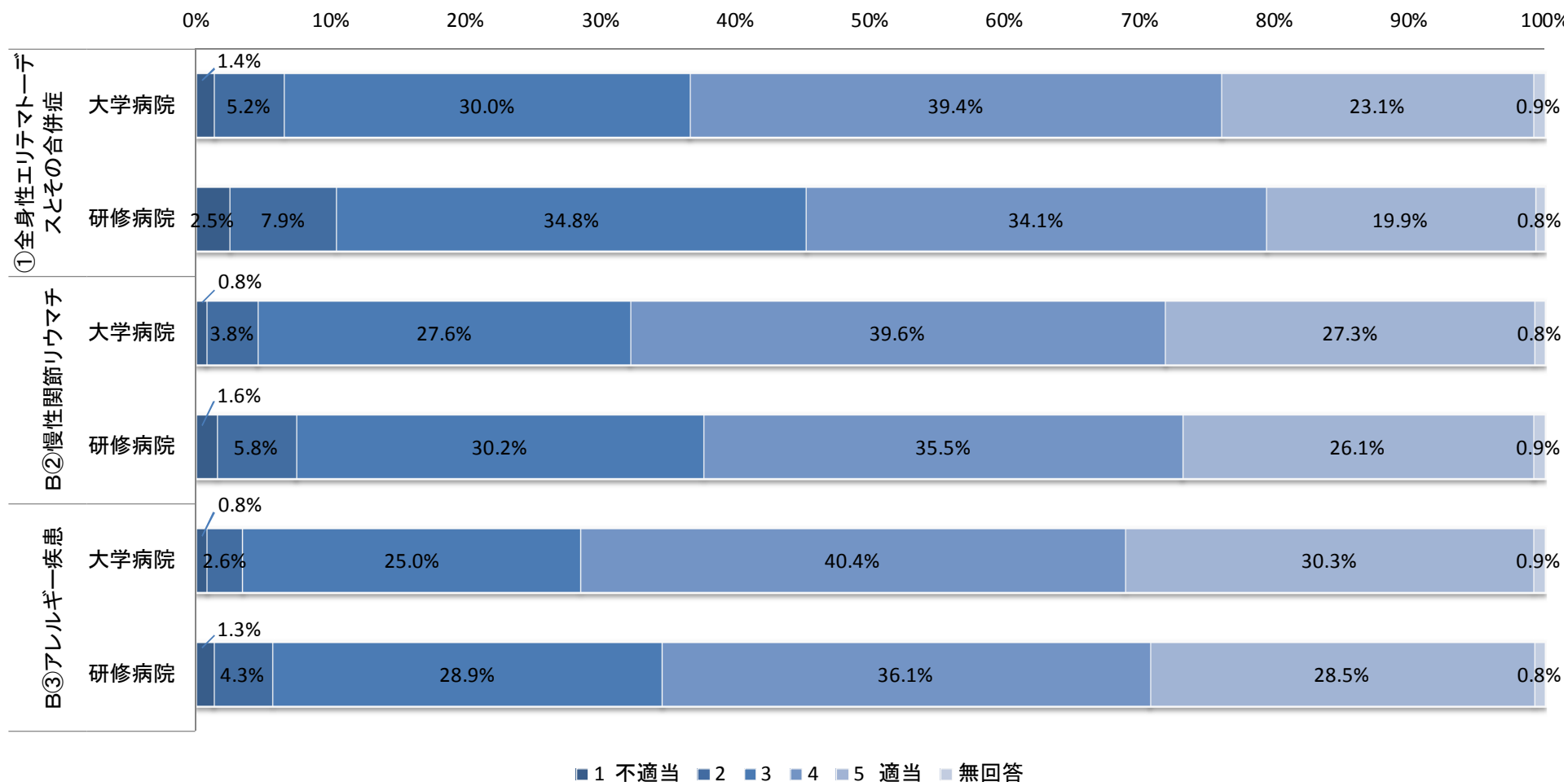


※ アンケート①のみの調査項目であり、回答者数は「大学病院」が1,821名、「臨床研修病院」が2,211名

## 到達目標「経験が求められる疾患・病態」に関する評価

到達目標「経験が求められる疾患・病態」の各項目について、基本的な診療能力の観点から、適当(役に立つ、意義深い)と思うか回答。

### (15) 免疫・アレルギー疾患

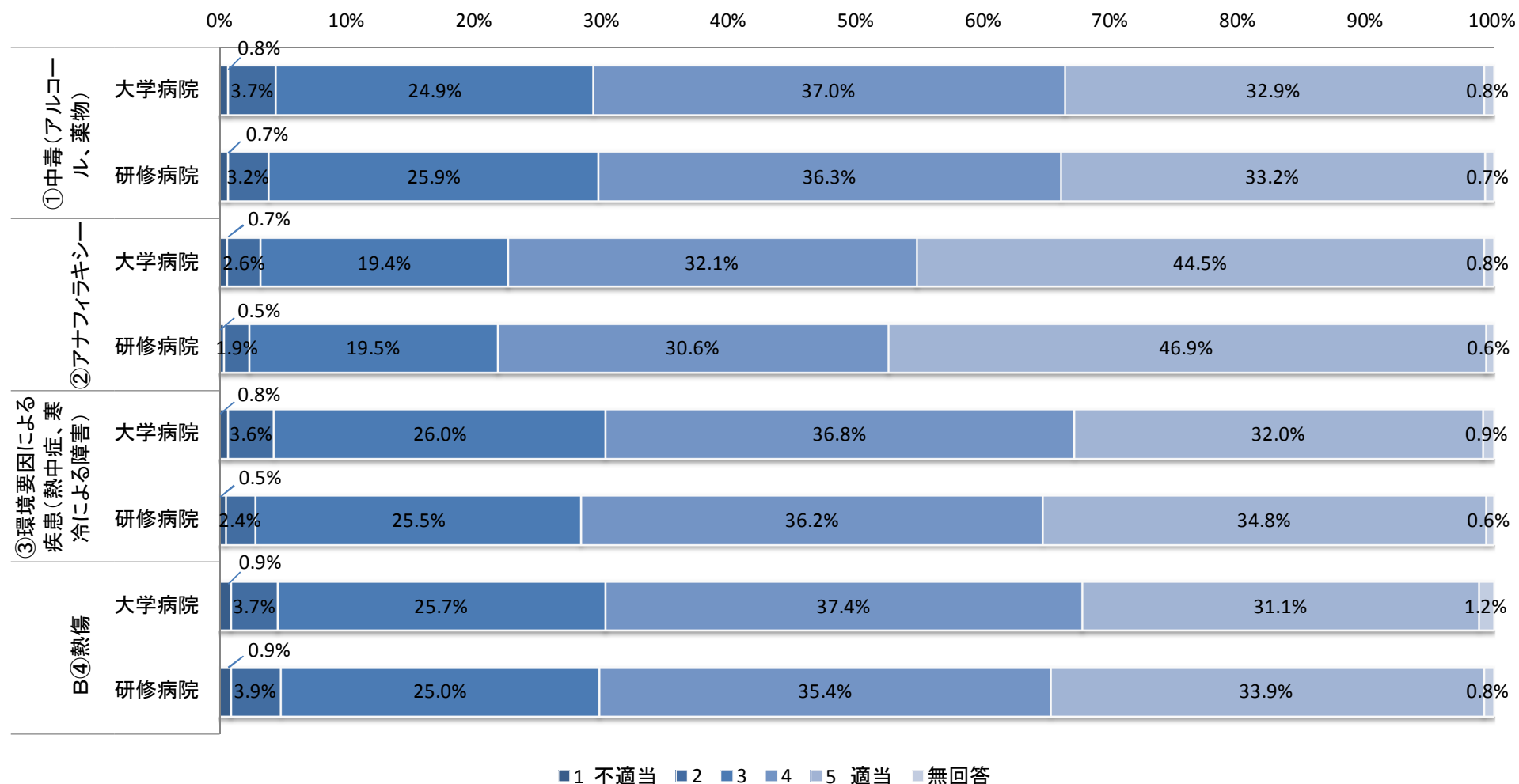


※ アンケート①のみの調査項目であり、回答者数は「大学病院」が1,821名、「臨床研修病院」が2,211名

# 到達目標「経験が求められる疾患・病態」に関する評価

到達目標「経験が求められる疾患・病態」の各項目について、基本的な診療能力の観点から、適当(役に立つ、意義深い)と思うか回答。

## (16) 物理・化学的因子による疾患

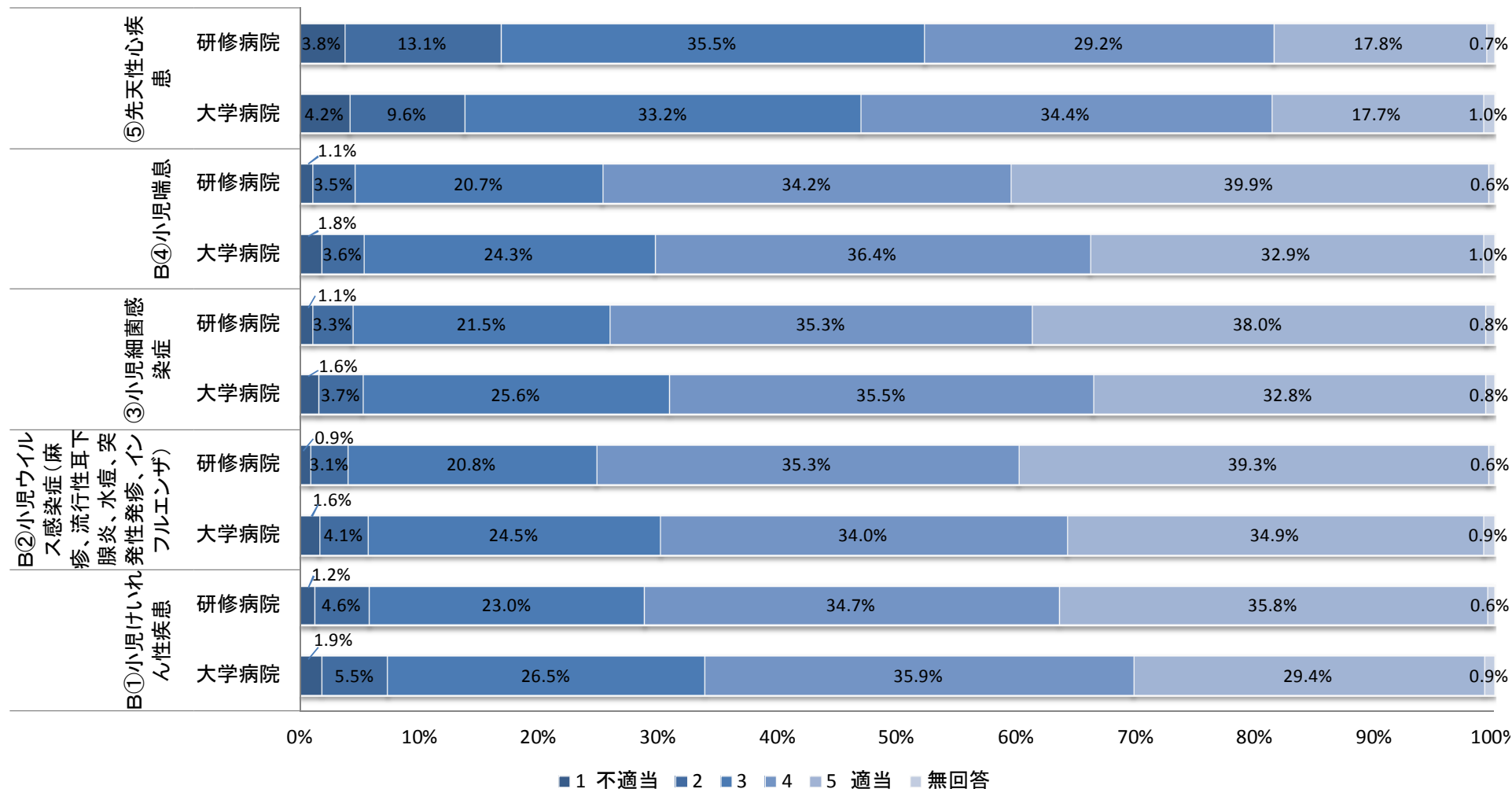


※ アンケート①のみの調査項目であり、回答者数は「大学病院」が1,821名、「臨床研修病院」が2,211名

# 到達目標「経験が求められる疾患・病態」に関する評価

到達目標「経験が求められる疾患・病態」の各項目について、基本的な診療能力の観点から、適当(役に立つ、意義深い)と思うか回答。

## (17)小児疾患



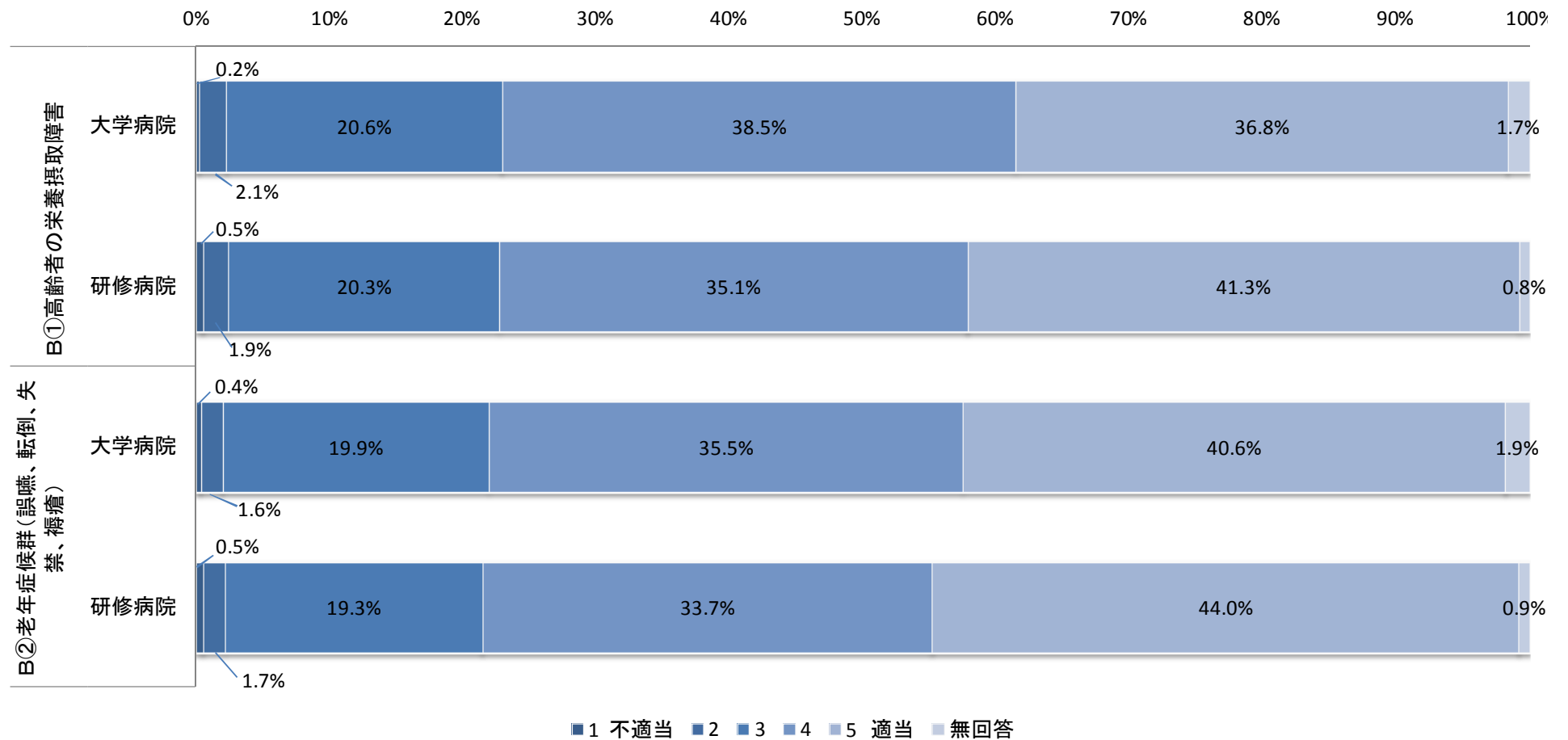
※ アンケート①のみの調査項目であり、回答者数は「大学病院」が1,821名、「臨床研修病院」が2,211名



## 到達目標「経験が求められる疾患・病態」に関する評価

到達目標「経験が求められる疾患・病態」の各項目について、基本的な診療能力の観点から、適当(役に立つ、意義深い)と思うか回答。

### (18) 加齢と老化



※ アンケート①のみの調査項目であり、回答者数は「大学病院」が1,821名、「臨床研修病院」が2,211名

## 臨床研修前後での将来希望する診療科の変化(1)

○研修前後で希望する診療科の変化がみられ、麻酔科、精神科は増加傾向にある。  
○ただし、他の世代の医師の診療科の状況も考慮する必要がある。

診療科	研修前※1				研修後※1				参考:全医師に対する割合 (平成24年医師・歯科医師・薬剤師調査)		
	人数	割合	(参考H25)	(参考H24)	人数	割合	(参考H25)	(参考H24)	30代 前半	30代 後半	全医師
内科系※2	2,163	36.6%	35.8%	34.4%	2,020	34.2%	34.8%	35.0%	33.3%	33.5%	37.4%
外科系※3	710	12.0%	12.1%	13.7%	593	10.0%	10.7%	11.9%	10.6%	10.5%	9.7%
小児科	474	8.0%	9.4%	10.3%	355	6.0%	6.6%	7.2%	6.7%	6.2%	5.7%
産婦人科 ※4	336	5.7%	5.6%	7.0%	269	4.6%	4.8%	5.8%	4.8%	4.5%	4.4%
麻酔科	188	3.2%	3.2%	2.8%	292	4.9%	5.0%	4.7%	5.6%	4.0%	2.8%
救急	151	2.6%	2.6%	3.0%	150	2.5%	2.7%	2.2%	1.9%	1.5%	0.9%
精神科	199	3.4%	3.7%	4.0%	254	4.3%	4.5%	4.6%	4.6%	6.1%	5.1%

※1・・・アンケート回答総数(5,905名)に対する割合

※2・・・内科系(内科、腎内、血内、糖尿病、呼内、循内、消内、神内、アレルギー、リウマチ、感染症、心療内科)

※3・・・外科系(外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、心臓血管外科、気管食道外科、肛門外科、小児外科)

※4・・・産婦人科(産婦人科、産科、婦人科)

## 臨床研修前後での将来希望する診療科の変化(2)

○研修前後で希望する診療科の変化がみられ、皮膚科、耳鼻咽喉科、放射線科を中心に増加傾向にある。  
○ただし、他の世代の医師の診療科の状況も考慮する必要がある。

診療科	研修前				研修後				参考: 全医師に対する割合 (平成24年医師・歯科医師・薬剤師調査)		
	人数	割合	(参考H25)	(参考H24)	人数	割合	(参考H25)	(参考H24)	30代 前半	30代 後半	全医師
皮膚科	136	2.3%	2.5%	1.9%	203	3.4%	3.4%	2.7%	3.2%	3.3%	3.0%
整形外科	374	6.3%	6.3%	5.3%	380	6.4%	6.5%	6.1%	6.4%	7.7%	7.1%
眼科	146	2.5%	2.0%	2.1%	172	2.9%	3.0%	2.2%	3.3%	4.9%	4.4%
耳鼻咽喉科	111	1.9%	1.9%	2.4%	165	2.8%	2.1%	2.7%	2.5%	3.1%	3.1%
泌尿器科	115	1.9%	1.7%	1.7%	155	2.6%	2.3%	2.3%	2.3%	2.8%	2.3%
脳神経外科	153	2.6%	2.6%	2.7%	144	2.4%	2.5%	2.6%	2.4%	2.7%	2.4%
放射線科	125	2.1%	1.8%	1.7%	183	3.1%	2.8%	2.9%	3.1%	2.6%	2.1%
病理診断	27	0.5%	0.5%	0.5%	39	0.7%	0.6%	0.7%	0.5%	0.6%	0.6%
形成外科	89	1.5%	1.4%	1.2%	115	1.9%	1.5%	1.3%	1.6%	1.5%	0.8%
リハビリ	19	0.3%	0.4%	0.3%	14	0.2%	0.5%	0.3%	0.4%	0.7%	0.7%
総合診療 (科)	106	1.8%	1.4%	1.9%	118	2.0%	1.8%	2.1%	—	—	—

## 臨床研修前後での将来希望する診療科の変化(男女別割合)

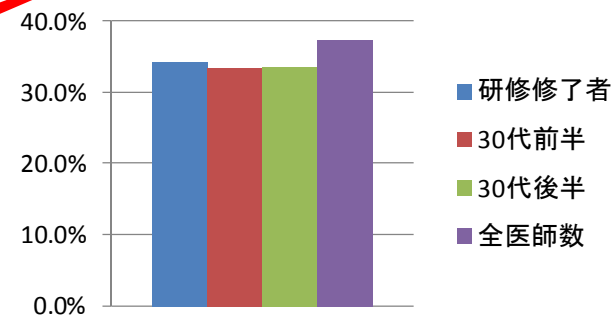
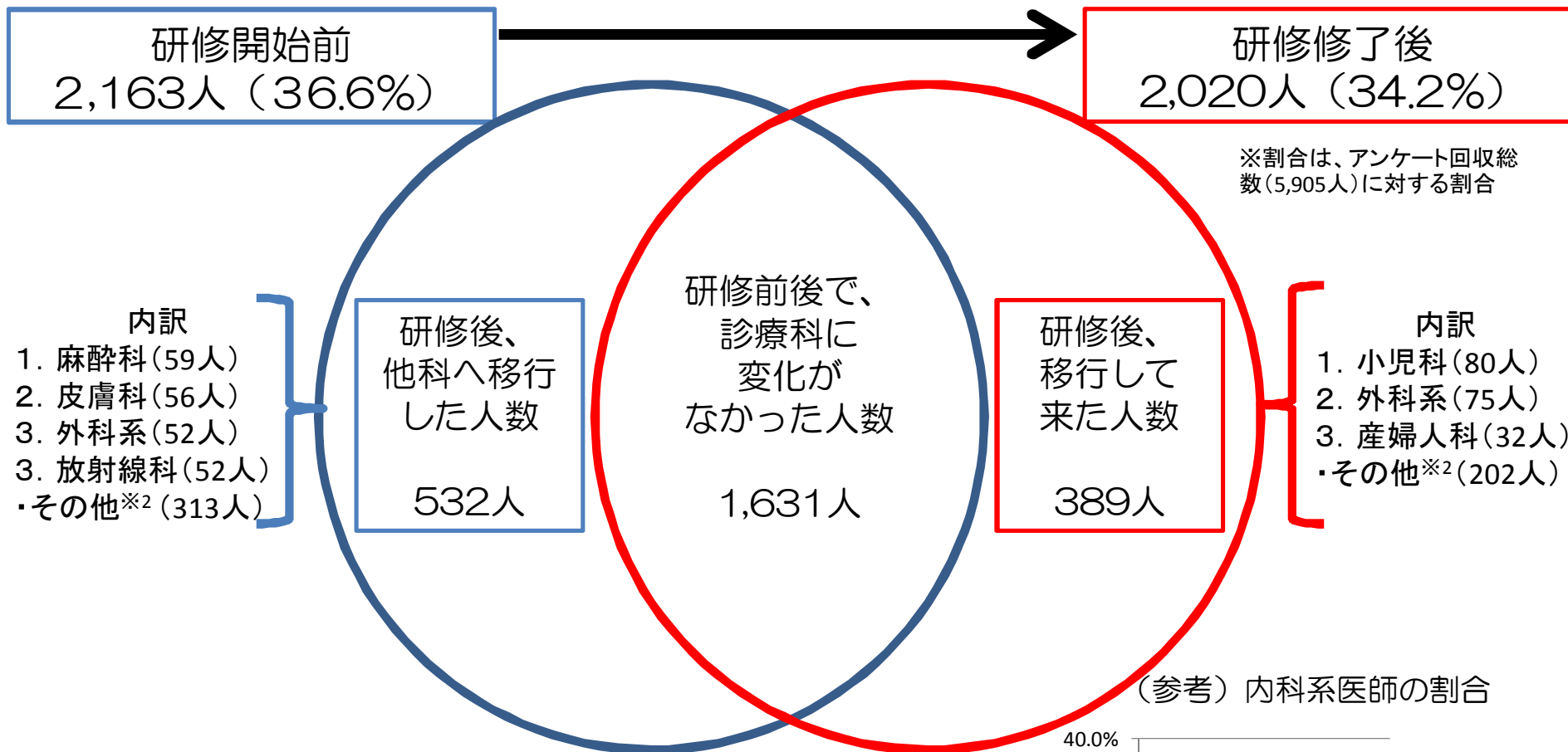
○男女別にみると、産婦人科、麻酔科、皮膚科は、女性の割合が研修前後とも5割を超えている。

診療科	研修前					研修後				
	総計	男性		女性		総計	男性		女性	
		人数	割合	人数	割合		人数	割合	人数	割合
内科系	2,163	1,452	67.1%	656	30.3%	2,020	1,393	69.0%	577	28.6%
外科系	710	575	81.0%	118	16.6%	593	464	78.2%	109	18.4%
小児科	474	254	53.6%	213	44.9%	355	214	60.3%	137	38.6%
産婦人科	336	122	36.3%	203	60.4%	269	102	37.9%	160	59.5%
麻酔科	188	87	46.3%	96	51.1%	292	134	45.9%	154	52.7%
救急	151	111	73.5%	30	19.9%	150	109	72.7%	31	20.7%
精神科	199	133	66.8%	50	25.1%	254	174	68.5%	65	25.6%
皮膚科	136	41	30.1%	88	64.7%	203	53	26.1%	142	70.0%
整形外科	374	322	86.1%	36	9.6%	380	324	85.3%	45	11.8%
眼科	146	84	57.5%	58	39.7%	172	92	53.5%	74	43.0%
耳鼻咽喉科	111	72	64.9%	33	29.7%	165	94	57.0%	62	37.6%
泌尿器科	115	94	81.7%	12	10.4%	155	126	81.3%	16	10.3%
脳神経外科	153	142	92.8%	10	6.5%	144	132	91.7%	11	7.6%
放射線科	125	91	72.8%	33	26.4%	183	129	70.5%	51	27.9%
病理診断	27	15	55.6%	11	40.7%	39	22	56.4%	15	38.5%
形成外科	89	52	58.4%	36	40.4%	115	63	54.8%	49	42.6%
リハビリ	19	11	57.9%	8	42.1%	14	10	71.4%	4	28.6%
総合診療(科)	106	77	72.6%	28	26.4%	118	85	72.0%	30	25.4%

※性別不詳の数値は割愛しているため、男女の合計割合が100%にはならない。

# 臨床研修前後で将来希望する診療科の変化

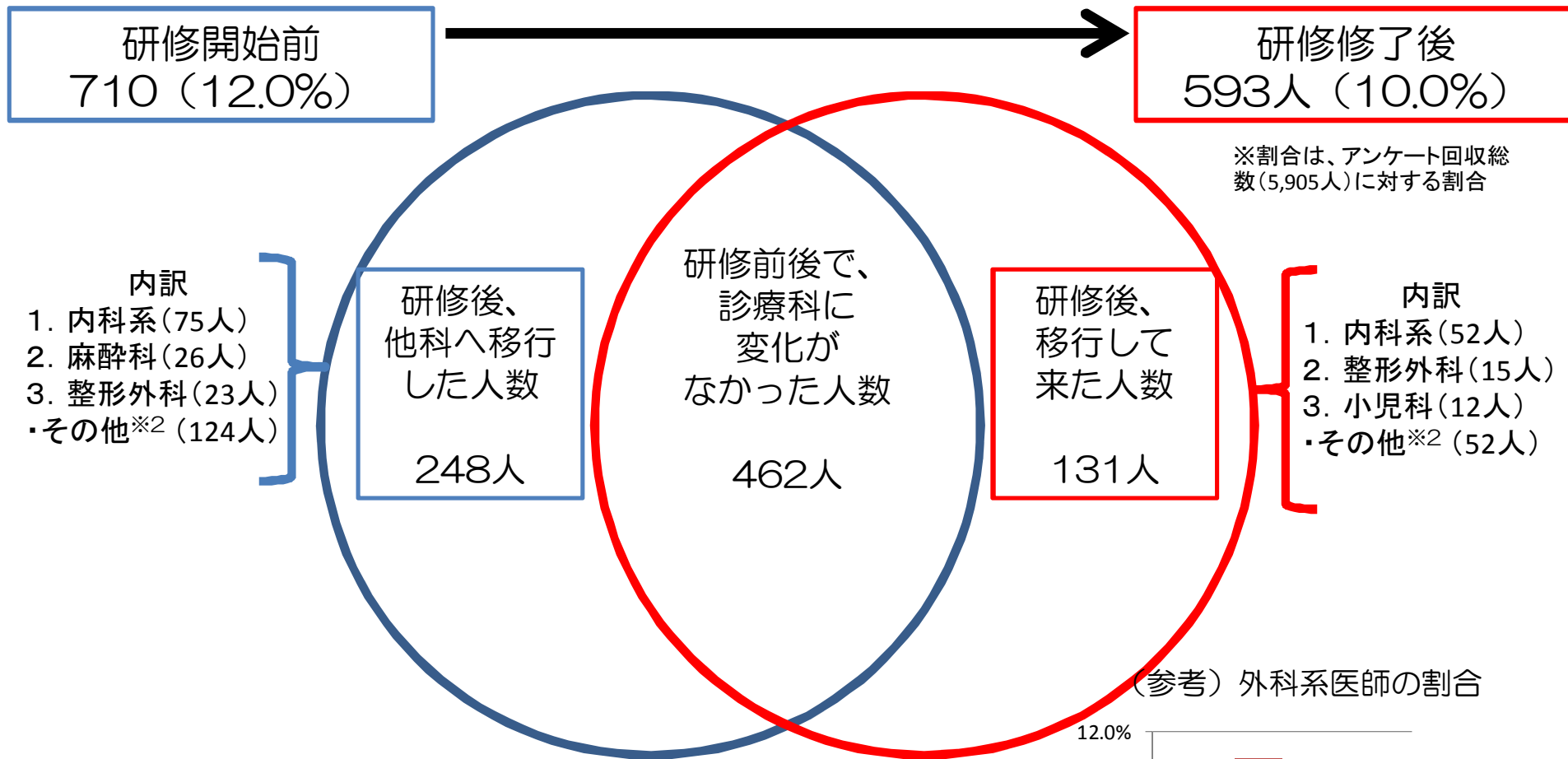
## 内科系※1



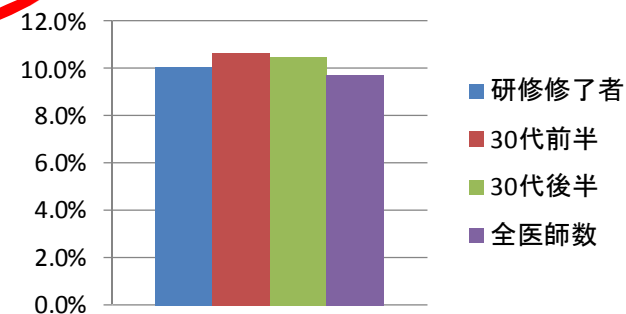
※1内科系・・・内科、腎内、血内、糖尿病、呼内、循内、消内、神内、アレルギー、リウマチ、感染症、心療内科

※2その他・・・無記入・無効回答含む

# 臨床研修前後で将来希望する診療科の変化 外科系※1



(参考) 外科系医師の割合

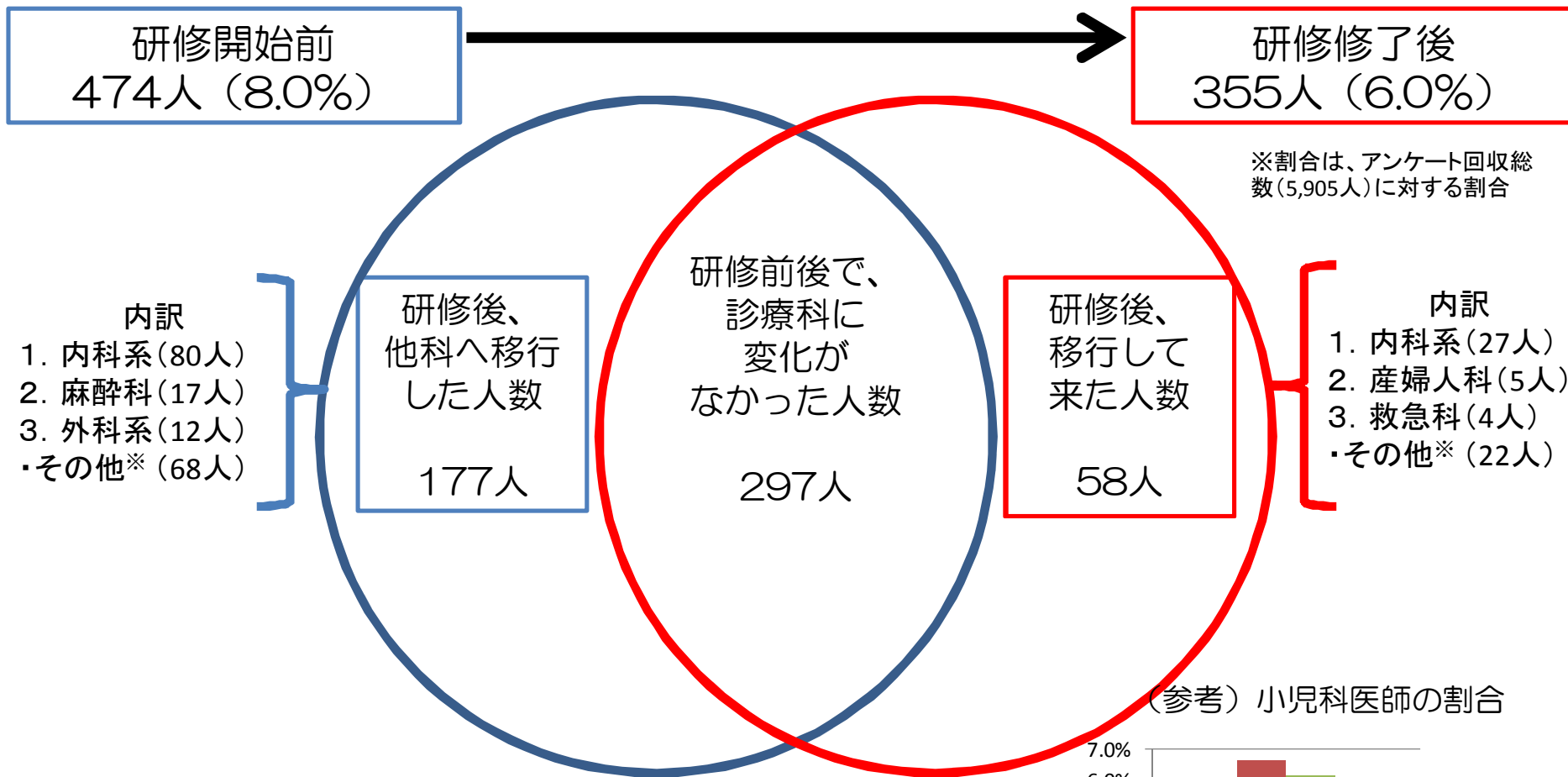


出典：平成24年度 医師・歯科医師・薬剤師調査 29

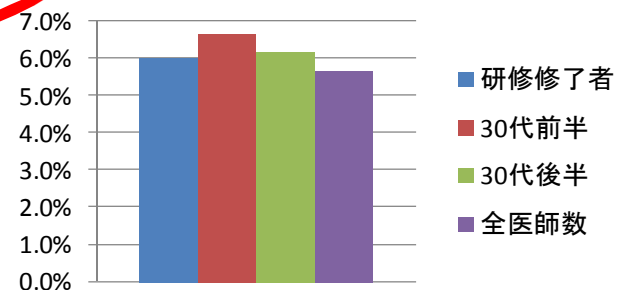
※1外科系・・・外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、  
心臓血管外科、気管食道外科、肛門外科、小児外科

※2その他・・・無記入・無効回答含む

# 臨床研修前後で将来希望する診療科の変化 小児科

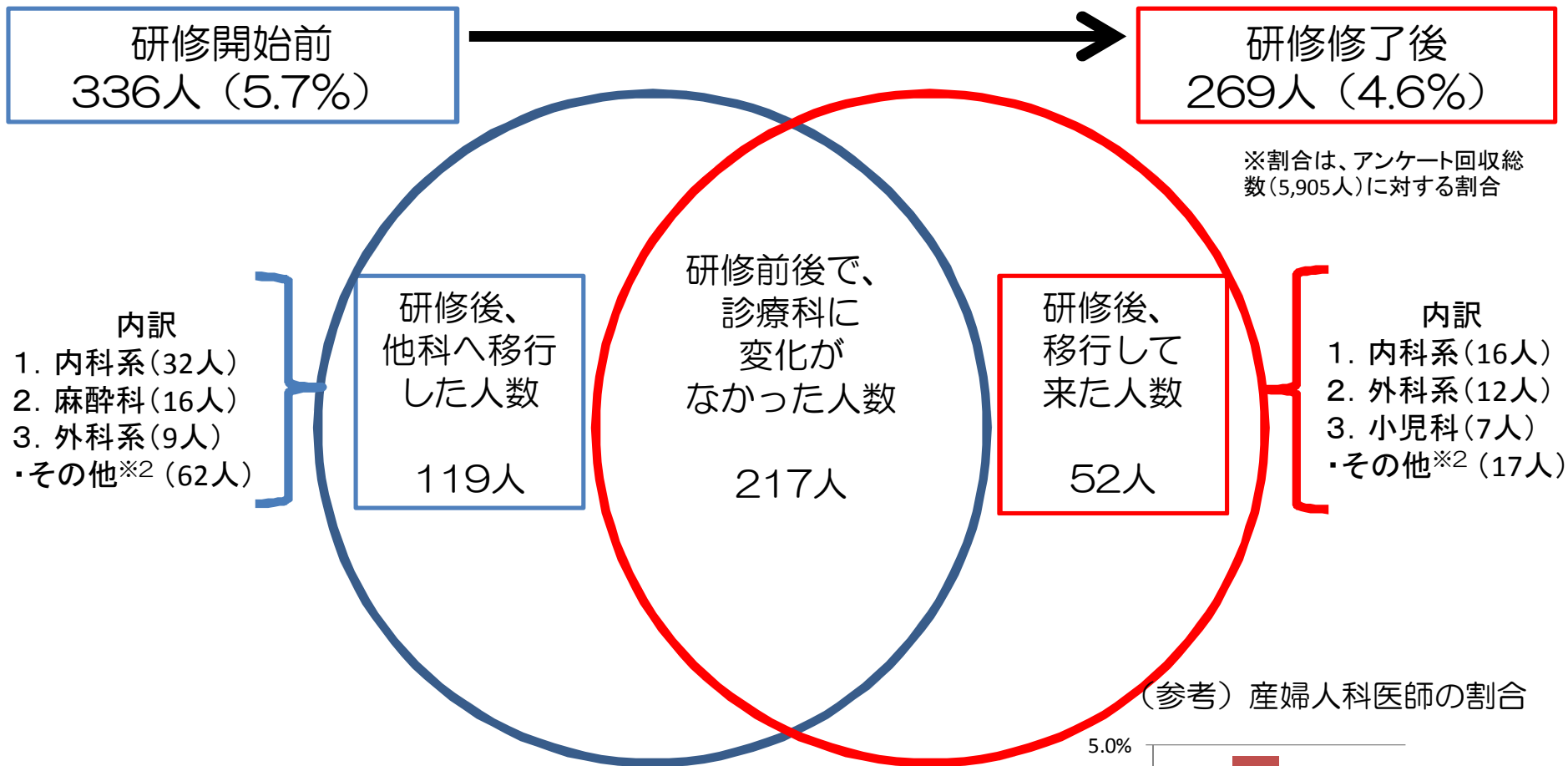


(参考) 小児科医師の割合

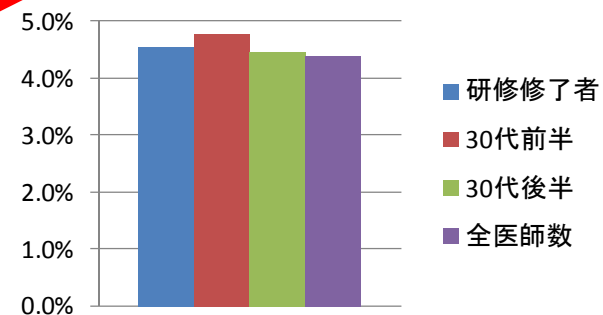


※その他・・・無記入・無効回答含む

# 臨床研修前後で将来希望する診療科の変化 産婦人科※1



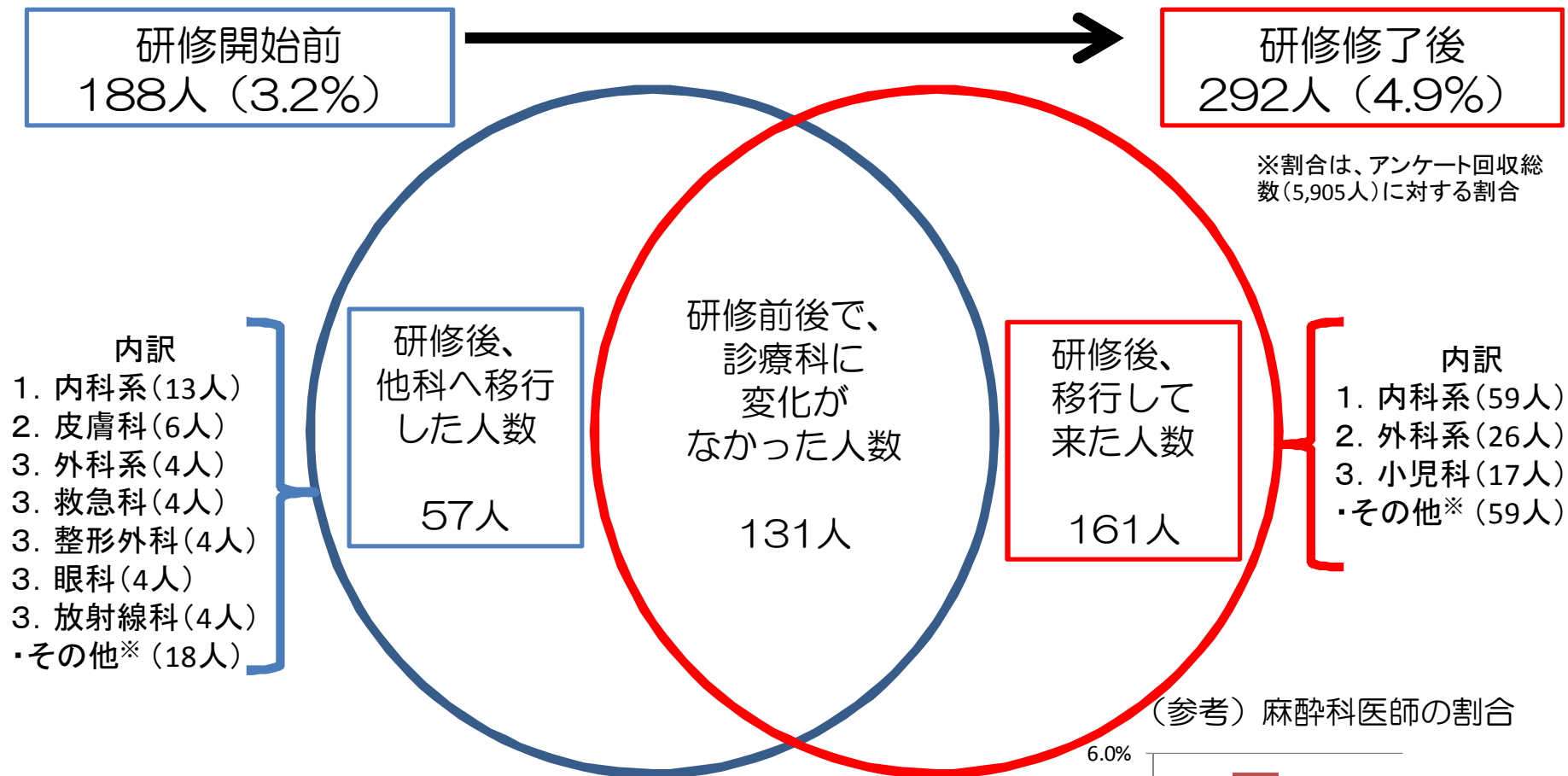
(参考) 産婦人科医師の割合



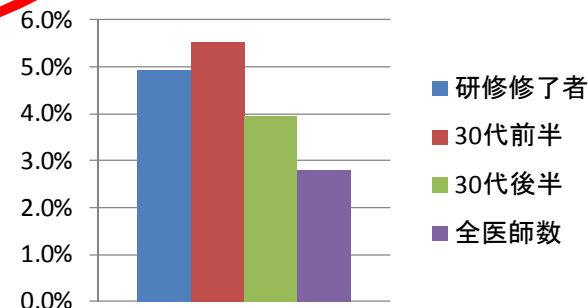
※1産婦人科・・・産婦人科、産科、婦人科  
※2その他・・・無記入・無効回答含む



# 臨床研修前後で将来希望する診療科の変化 麻酔科

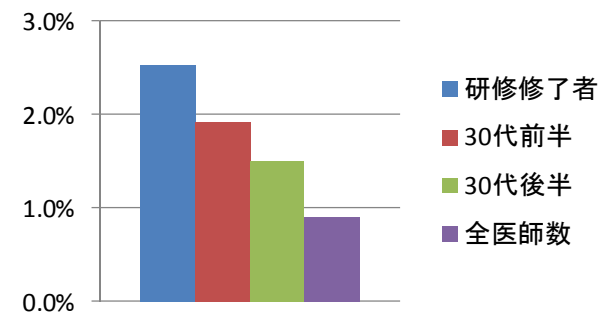
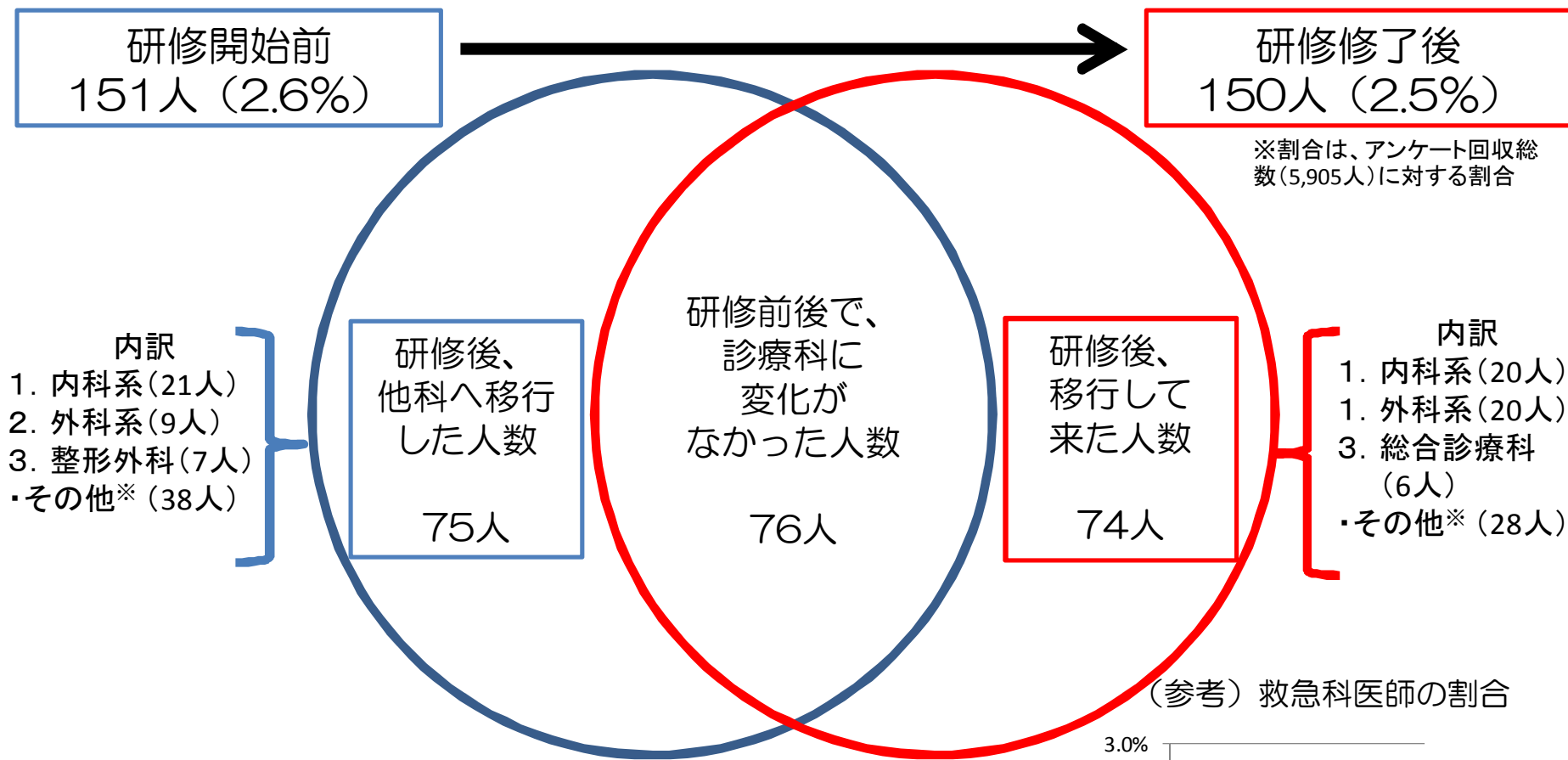


(参考) 麻酔科医師の割合



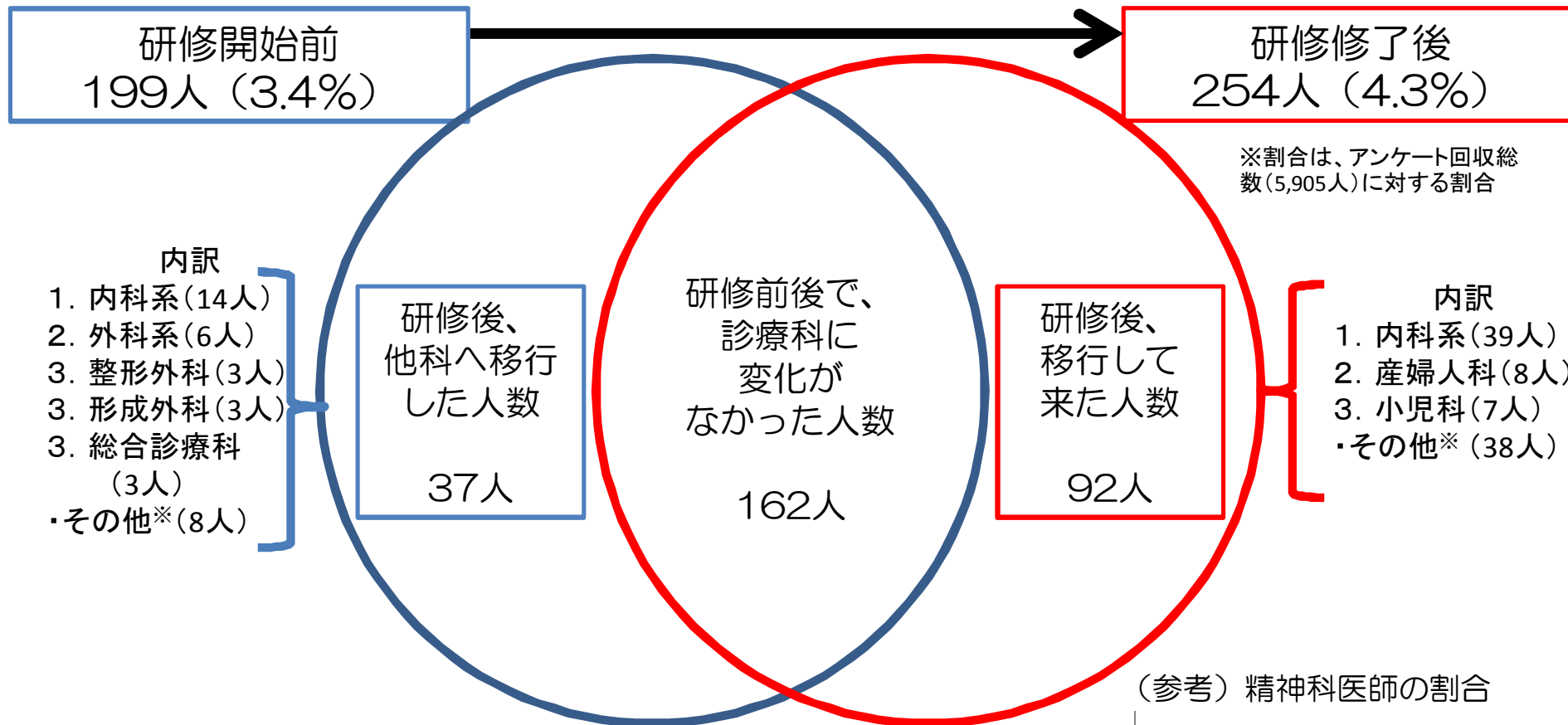
※その他・・・無記入・無効回答含む

# 臨床研修前後で将来希望する診療科の変化 救急科

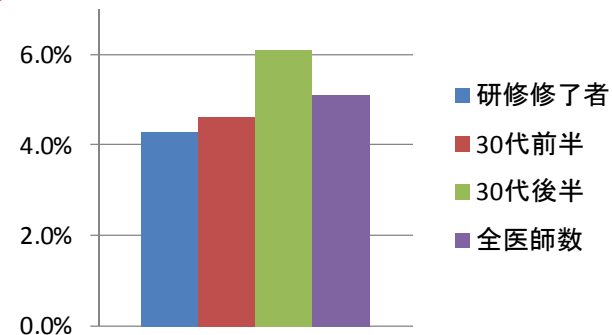


※その他・・・無記入・無効回答含む

# 臨床研修前後で将来希望する診療科の変化 精神科



(参考) 精神科医師の割合



※その他・・・無記入・無効回答含む

# 臨床研修修了後のキャリアパス等 について

## 研修修了後に勤務する病院

○臨床研修修了後に勤務する病院のうち、大学病院は5割を超え、平成25年と比べて割合が高くなっている。

### 臨床研修修了後に勤務する病院(予定)の種別

病院の種別	割合	
大学病院 (卒業した大学、卒業した以外の大学共に含む)	54.4%	(参考H25) 49.9%
大学病院以外の病院	43.6%	45.7%
その他※	2.0%	4.5%

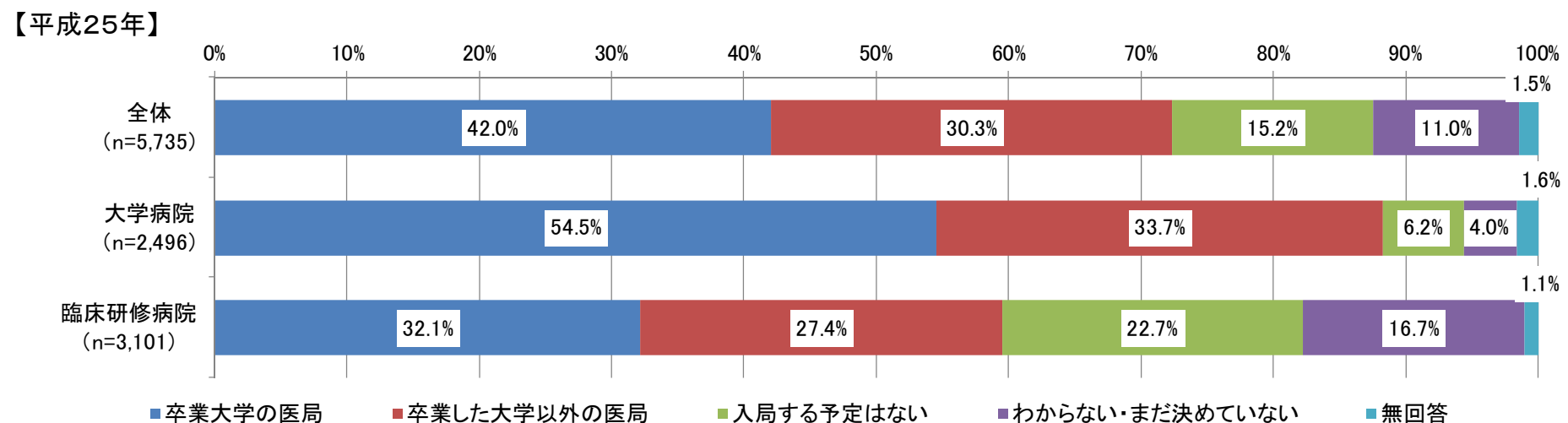
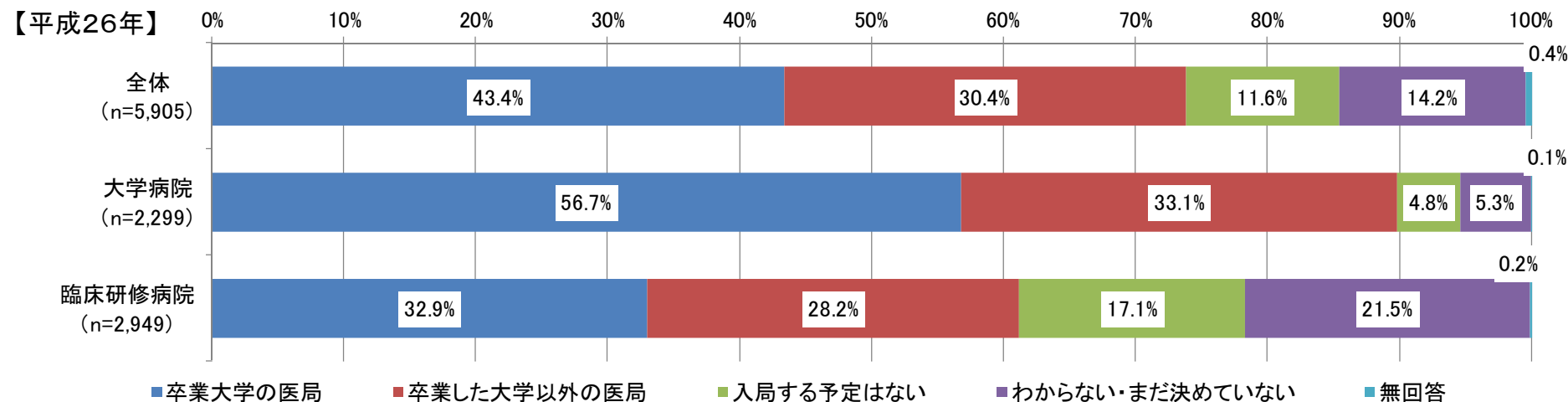
※その他・・・無回答、診療所の開設、臨床以外の進路など

## 臨床研修修了後の入局予定

○臨床研修修了後に入局(大学の講座や教室等に所属)を予定している者は全体の約7割で、臨床研修実施場所別で見ると、大学病院では約9割、臨床研修病院では約6割である。

○平成25年と比べて、大学病院及び臨床研修病院では臨床研修修了後の入局予定者の割合が高くなっている。

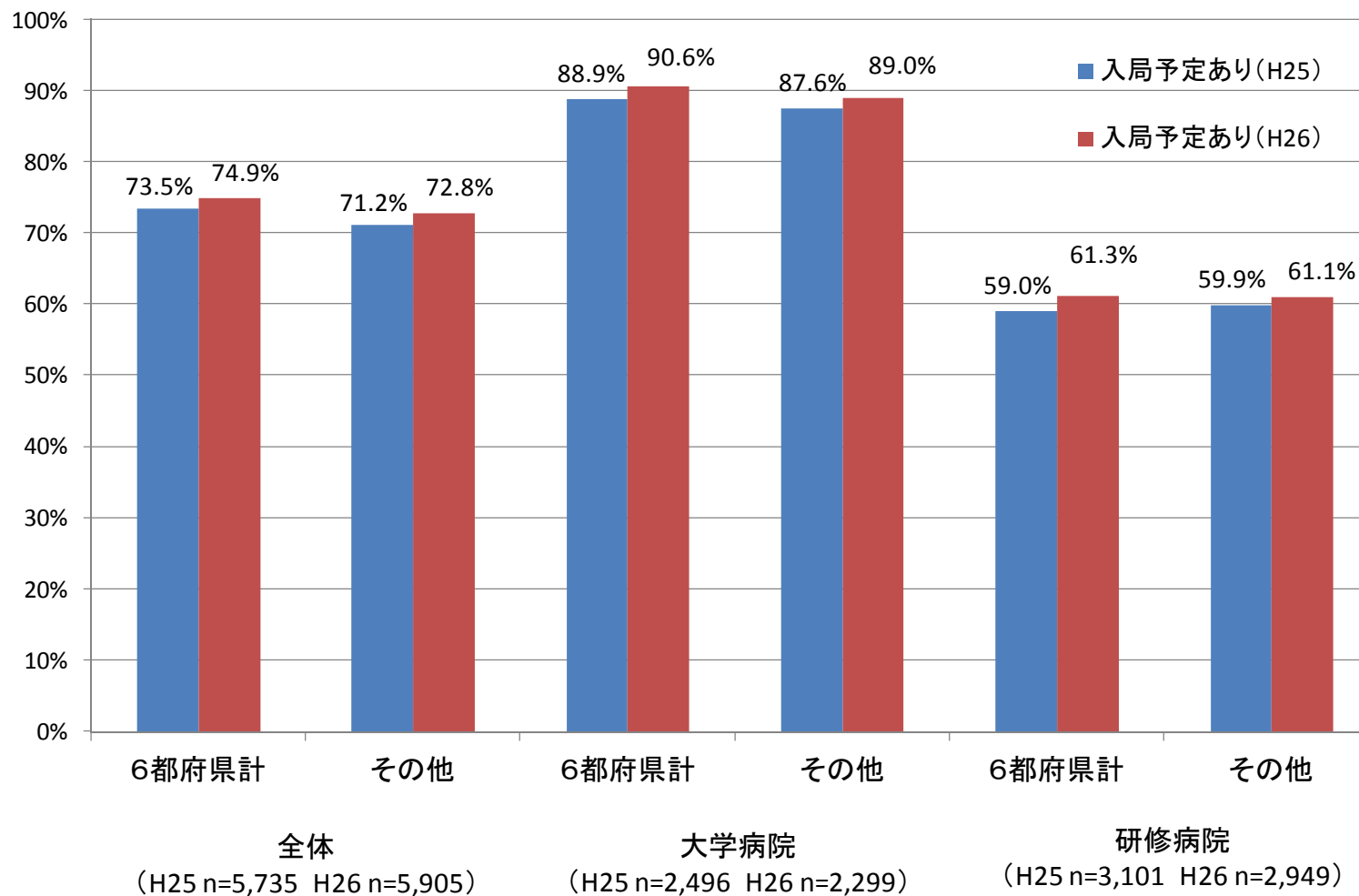
### 臨床研修修了後の入局予定



※平成26年、平成25年ともに、「全体」には臨床研修を行った病院の種別が不明であった者も含まれる。

## 臨床研修修了後の入局予定（参考）

### 臨床研修修了後の入局予定ありの割合【平成26年】



※6都府県とは、東京都、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、福岡県

※平成26年、平成25年ともに、「全体」には臨床研修を行った病院の種別が不明であった者も含まれる。

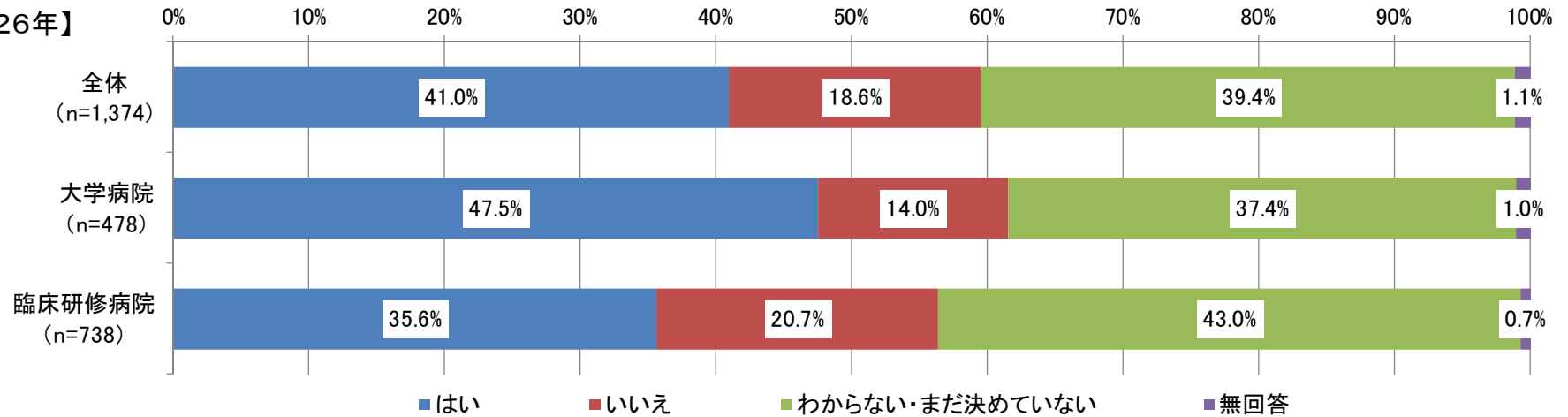
# 医学博士取得の希望

○医学博士の取得を希望する者は全体の約4割で、臨床研修実施場所別で見ると、大学病院は臨床研修病院よりその割合が高くなっている。

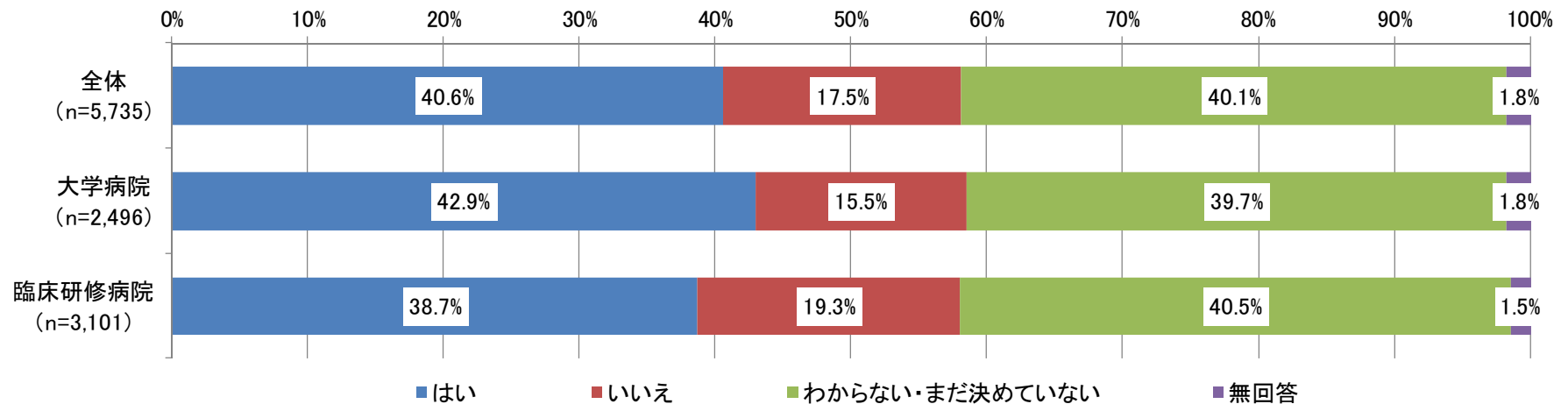
○平成25年と比べて、大学病院では医学博士取得の希望者の割合が高くなっている。

## 医学博士の取得希望

【平成26年】



【平成25年】



※1 平成26年、平成25年ともに、「全体」には、臨床研修を行った病院の種別が不明であった者も含まれる。

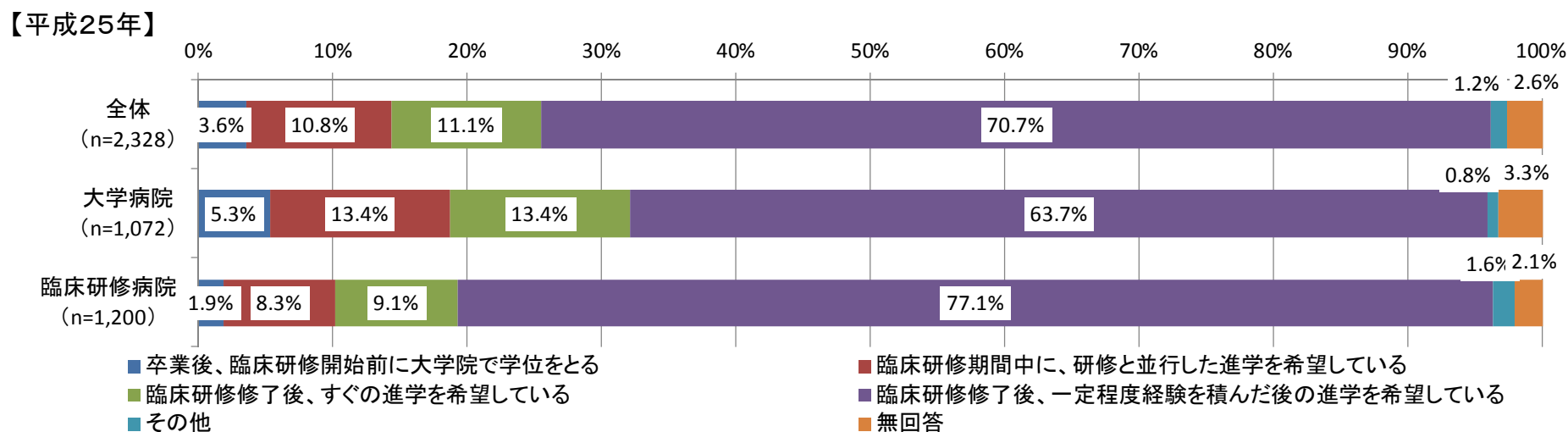
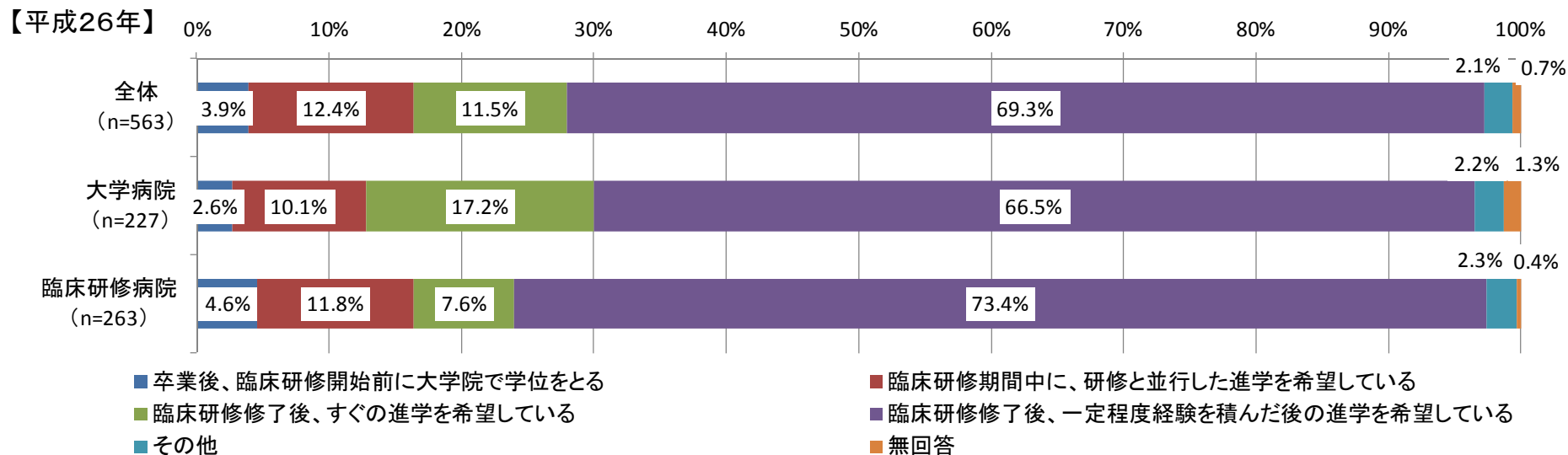
※2 平成26年はアンケート②のみの調査項目であり、「全体」はアンケート②の回答者総数である。



## 大学院進学の時期等 (※医学博士の取得希望を有する者のみ回答)

○理想的な大学院進学の様子は、「臨床研修修了後、すぐの進学」が約1割、「臨床研修修了後、一定程度経験を積んだ後の進学」が約7割である一方、「臨床研修期間中に研修と並行した進学」も約1割となっている。

### 大学院への進学の様子は(理想とする形)



※1 平成26年、平成25年ともに、「全体」には、臨床研修を行った病院の種別が不明であった者も含まれる。

※2 平成26年はアンケート②のみの調査項目であり、「全体」はアンケート②の回答者のうち、医学博士の取得希望を有する者の総数である。

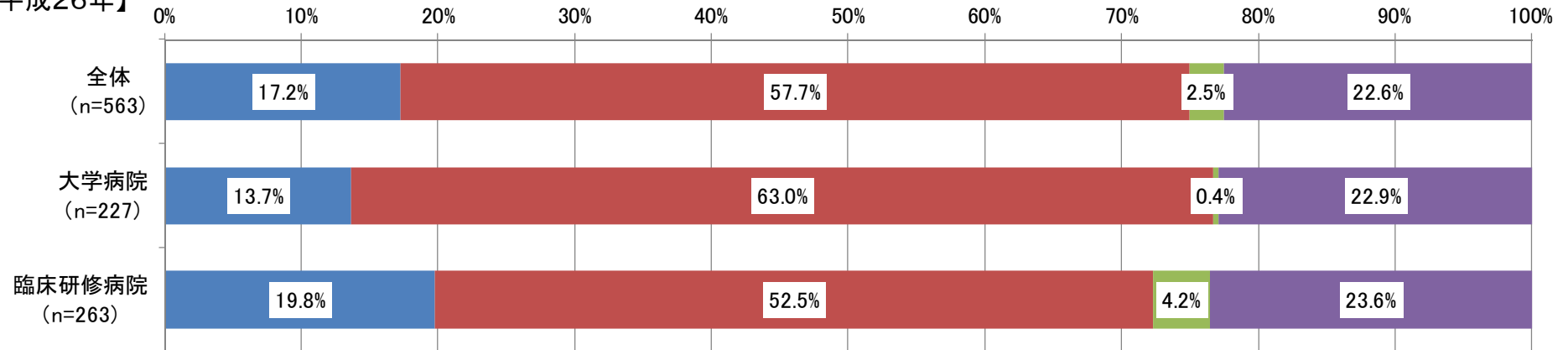
## 大学院での研究分野 (※医学博士の取得希望を有する者のみ回答)

○大学院での研究分野は「臨床」が約6割、「基礎」が約2割となっており、大学病院では臨床研修病院と比べて「臨床」の割合が約12%高い。

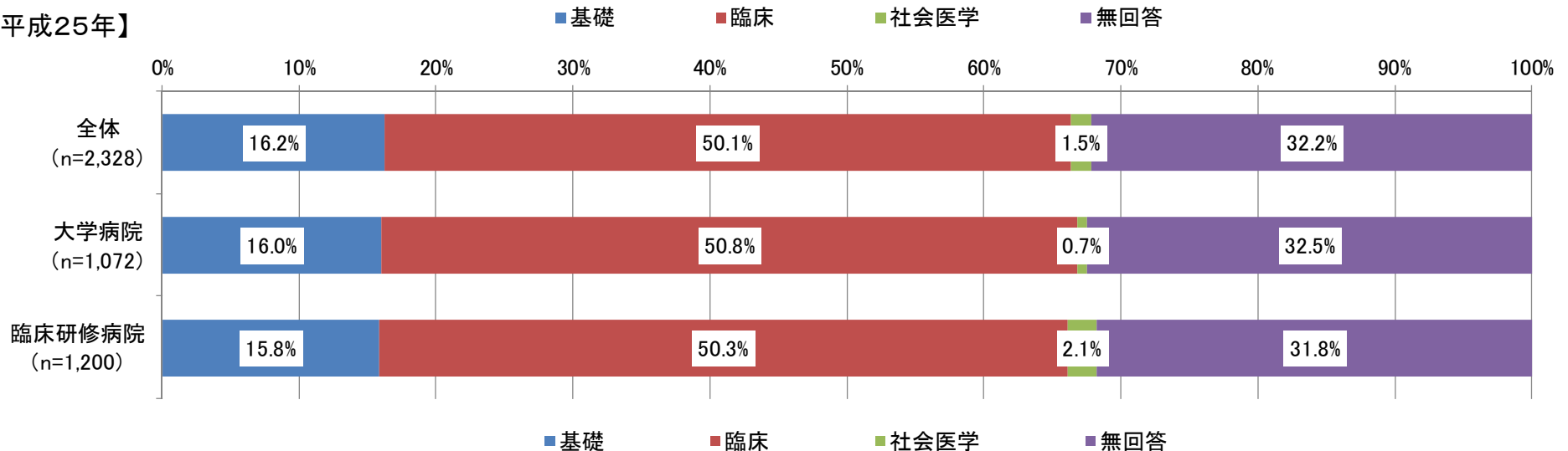
○平成25年と比べて、大学病院及び臨床研修病院では「臨床」と回答した者の割合が高くなっている。

### 大学院での研究分野

【平成26年】



【平成25年】



※1 平成26年、平成25年ともに、「全体」には、臨床研修を行った病院の種別が不明であった者も含まれる。

※2 平成26年はアンケート②のみの調査項目であり、「全体」はアンケート②の回答者のうち、医学博士の取得希望を有する者の総数である。

# 地域枠の状況や医師不足地域への従事 に対する意識等について

## 地域枠で入学する者等の割合

### ①地域枠での入学者(※)

142人 (2.4%)

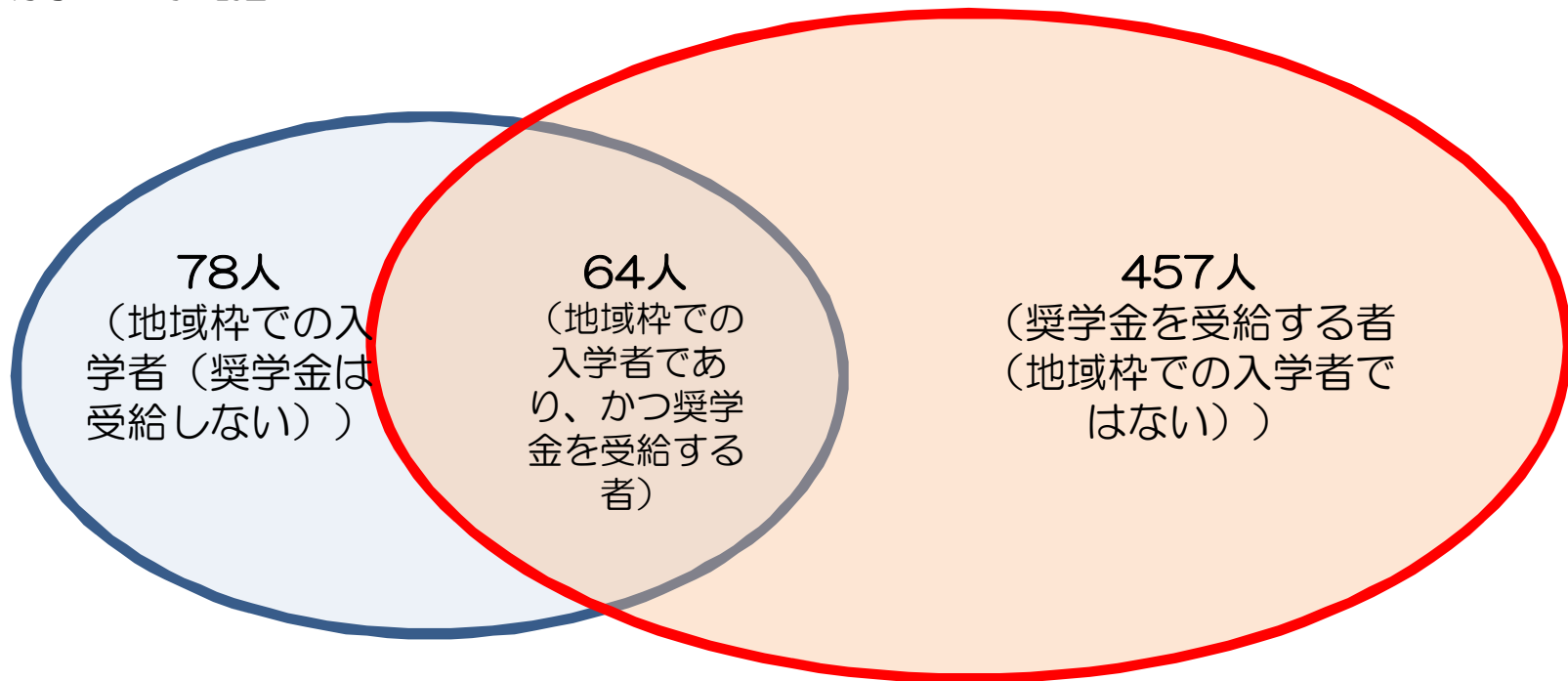
(※) 地域医療等に従事する明確な意志をもった学生の選抜枠

※ ( ) 内は回答者総数である  
5,905人を分母にした時の割合

### ②奨学金の受給者

521人 (8.8%)

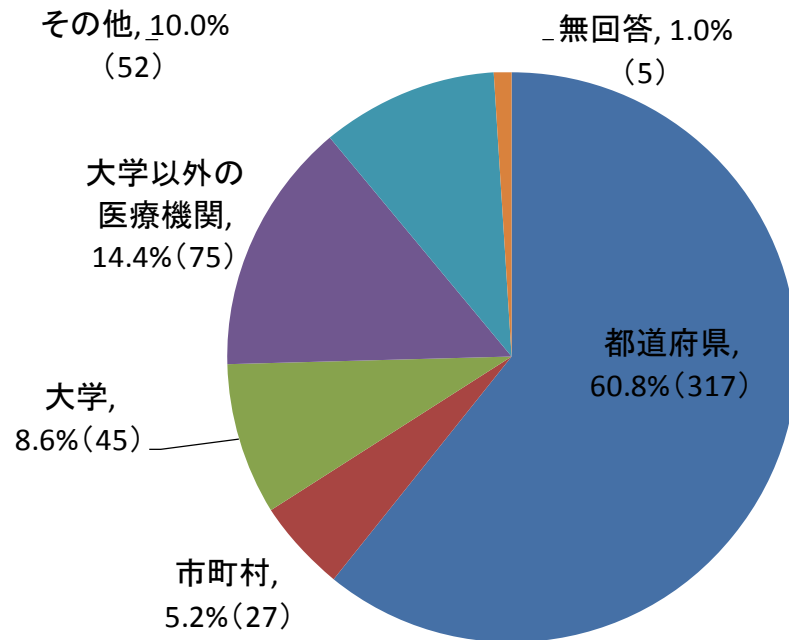
※ ( ) 内は回答者総数である  
5,905人を分母にした時の割合



(参考) ①または②に該当する者 599人

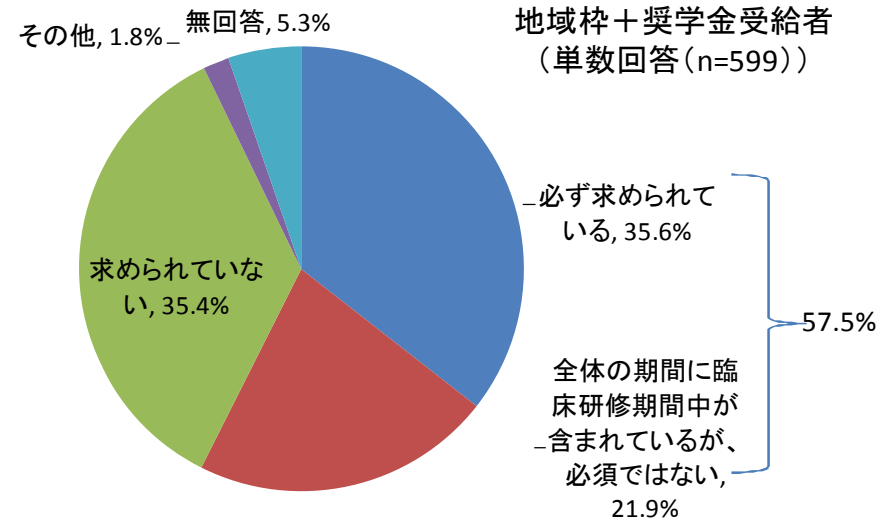
## 奨学金の支給元

奨学金受給者(単数回答(n=521))

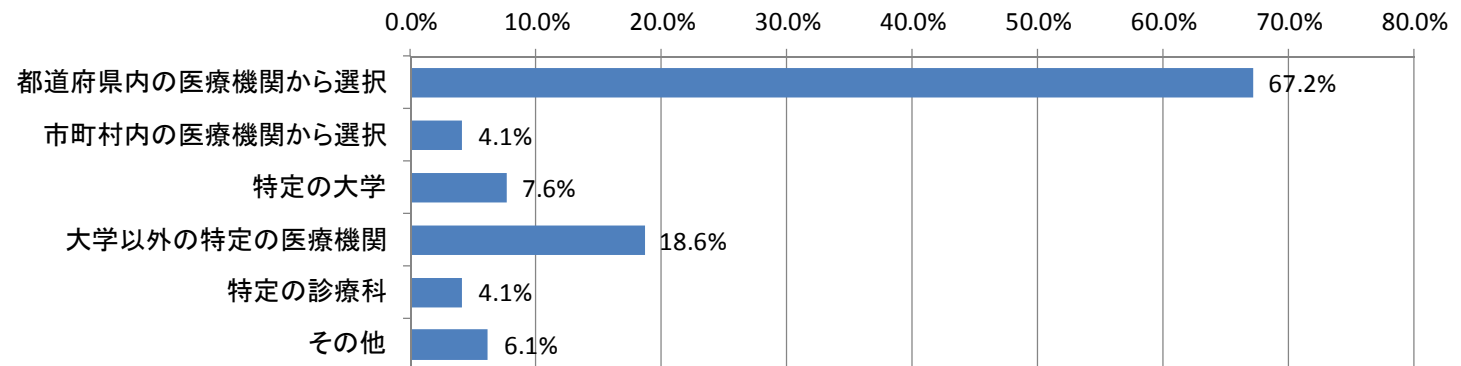


## 臨床研修中における地域等への従事

地域枠+奨学金受給者(単数回答(n=599))

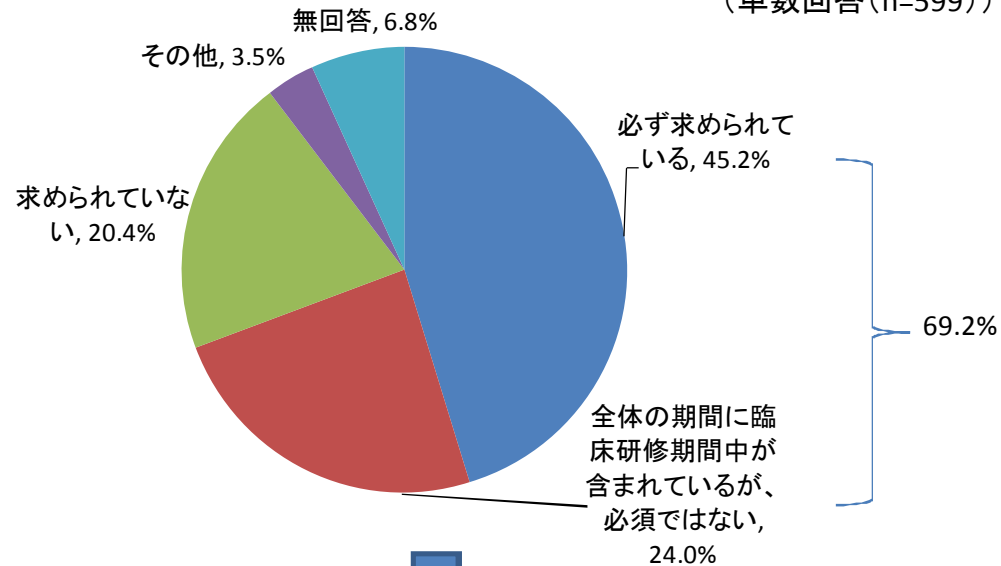


対象者344人(内訳:複数回答)

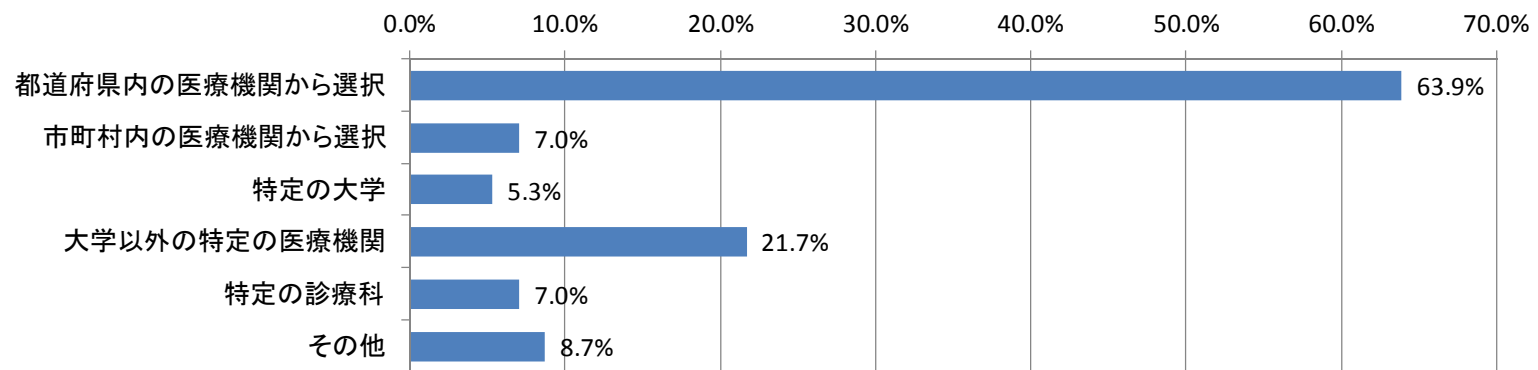


# 臨床研修終了後における地域等への従事

地域枠+奨学金受給者  
(単数回答(n=599))

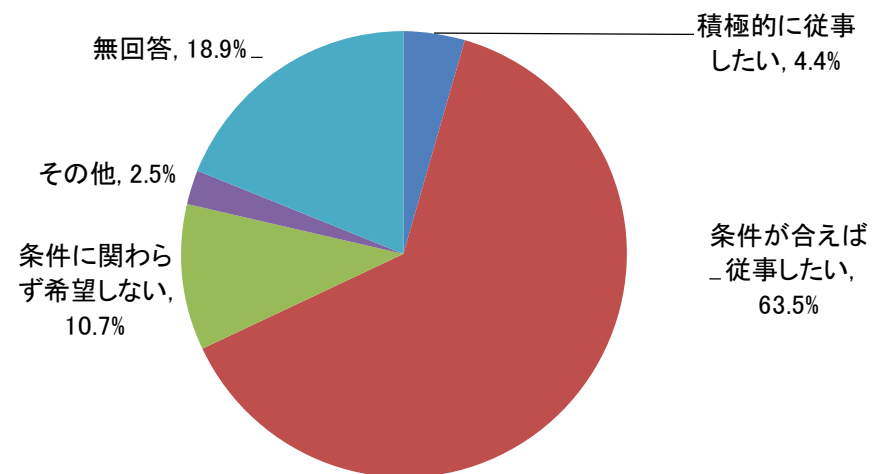


対象者415人(内訳:複数回答)



## 医師不足地域への従事についての意識（地域枠・奨学金受給者以外の者）

地域枠+奨学金受給者以外  
(単数回答(n=3,986))



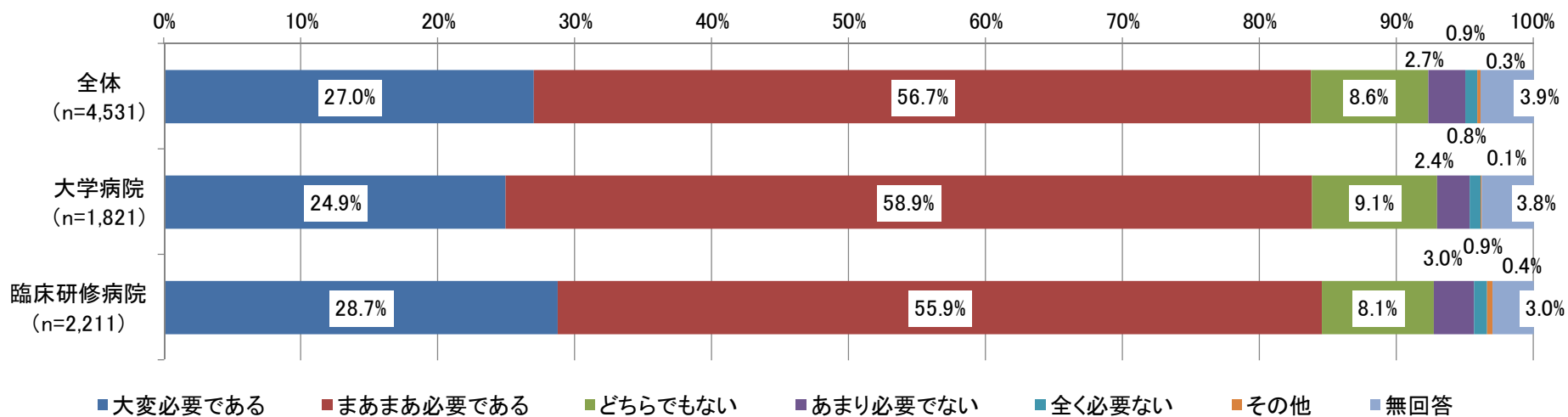
※1 地域枠、奨学金受給者、地域枠・奨学金の受給状況のいずれについても無回答であった者を除いた3,986名を集計対象としている。

※2 アンケート①のみの調査項目である。

# 研修中の学術活動等について

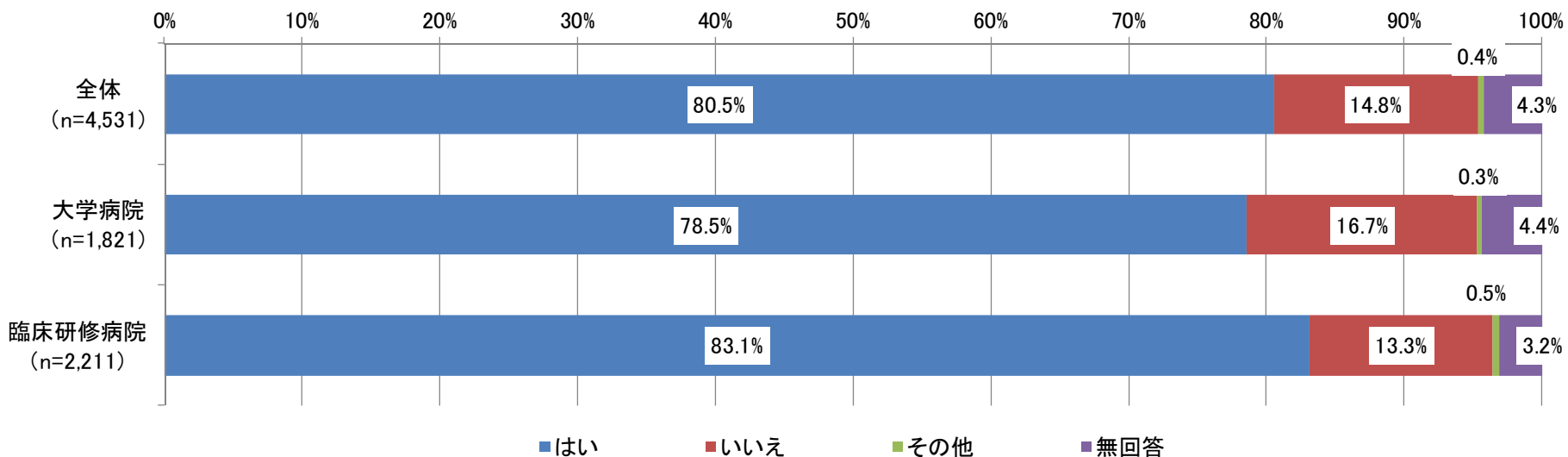


## 研修中の学術活動の必要性



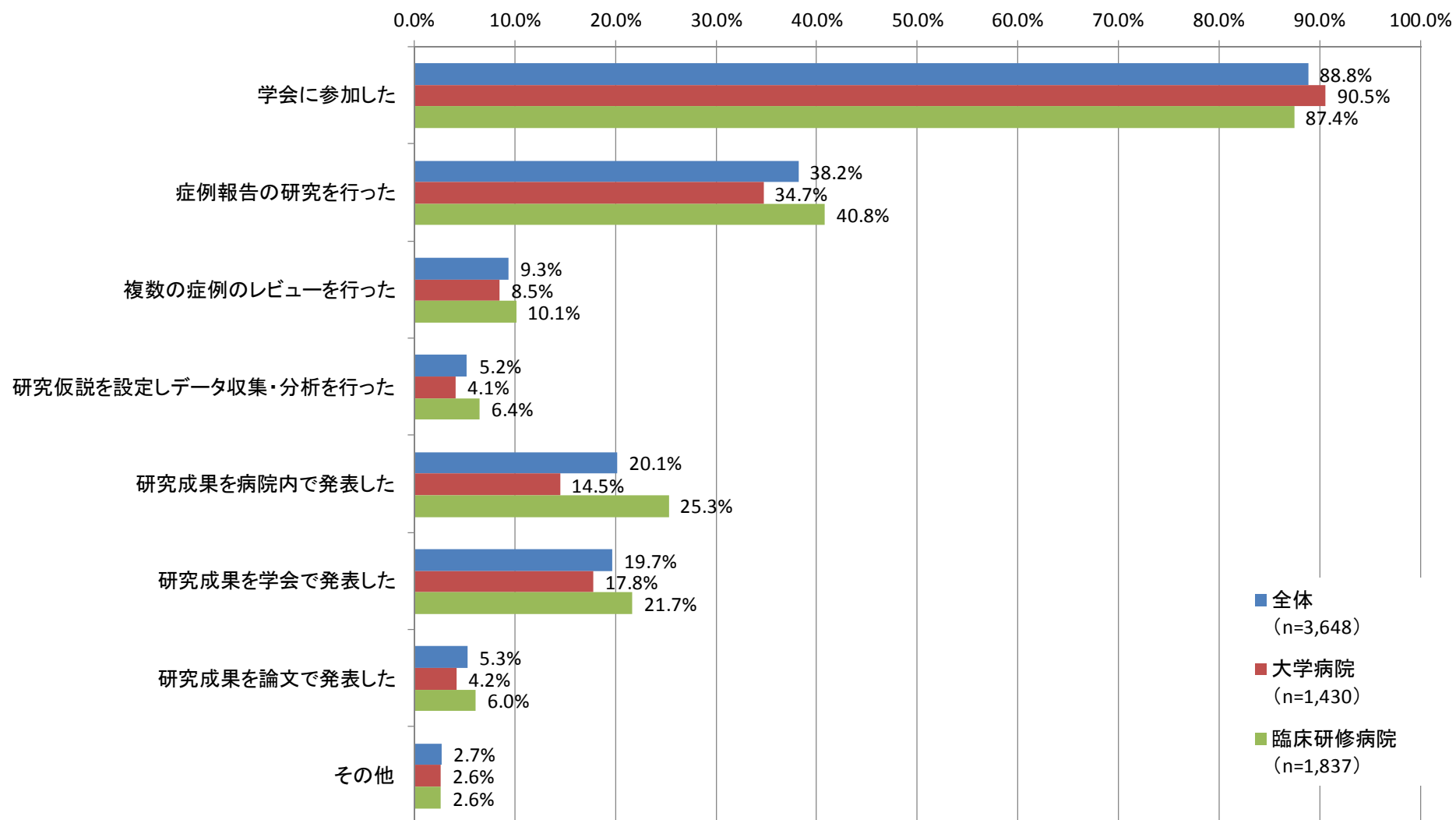
※1 「全体」には、臨床研修を行った病院の種別が不明であった者も含まれる。  
 ※2 アンケート①のみの調査項目である。

## 研修中の学術活動の実施状況等



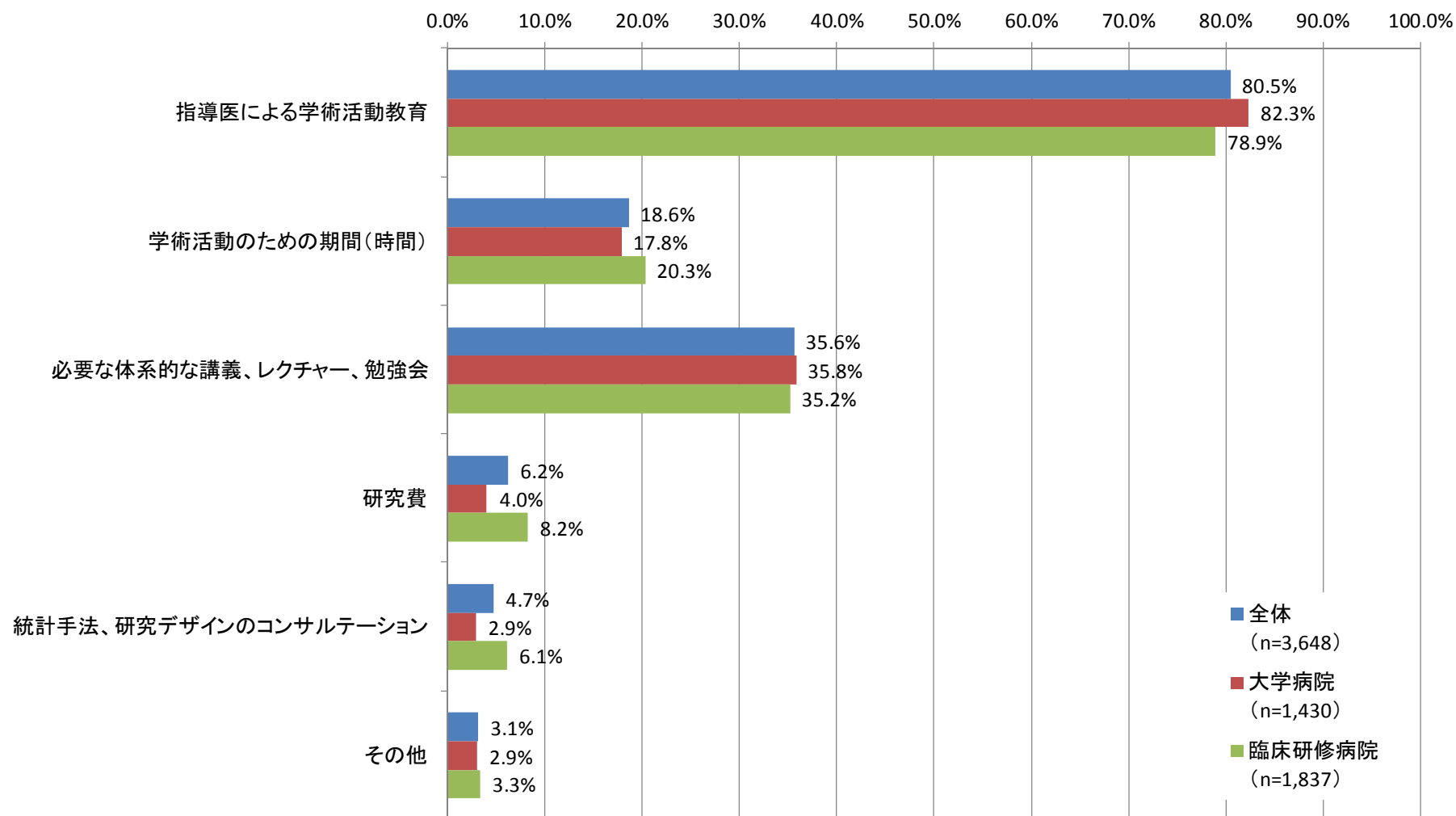
※1 「全体」には、臨床研修を行った病院の種別が不明であった者も含まれる。  
 ※2 アンケート①のみの調査項目である。

## 実施した学術活動の内容 (複数回答、研修中に学術活動を行った人のみの回答)



※1 「全体」には、臨床研修を行った病院の種別が不明であった者も含まれる。  
 ※アンケート①のみの調査項目である。

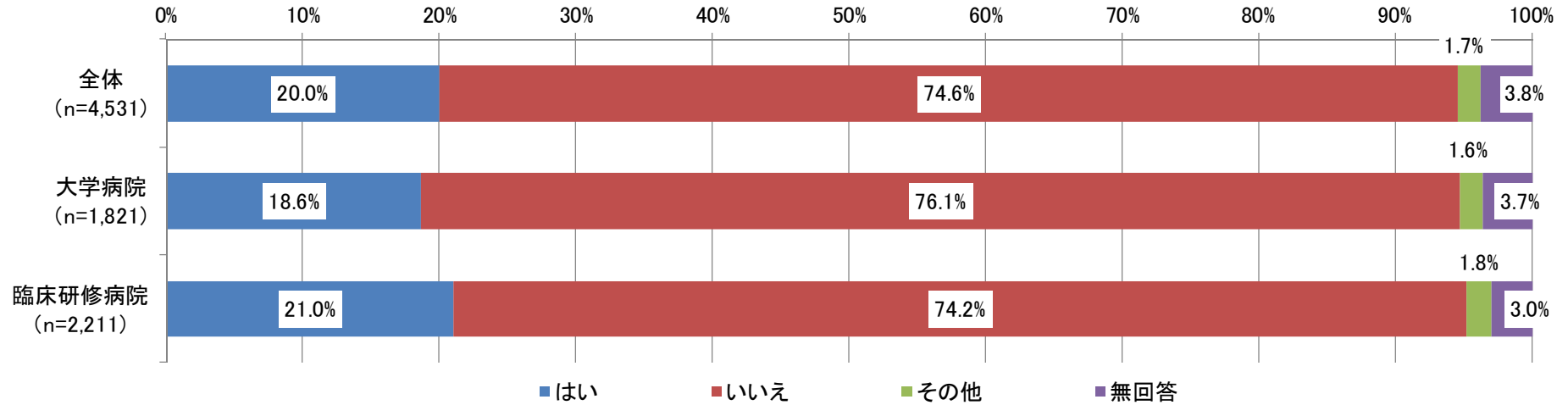
## 利用可能であった学術活動支援 (複数回答、研修中に学術活動を行った人のみの回答)



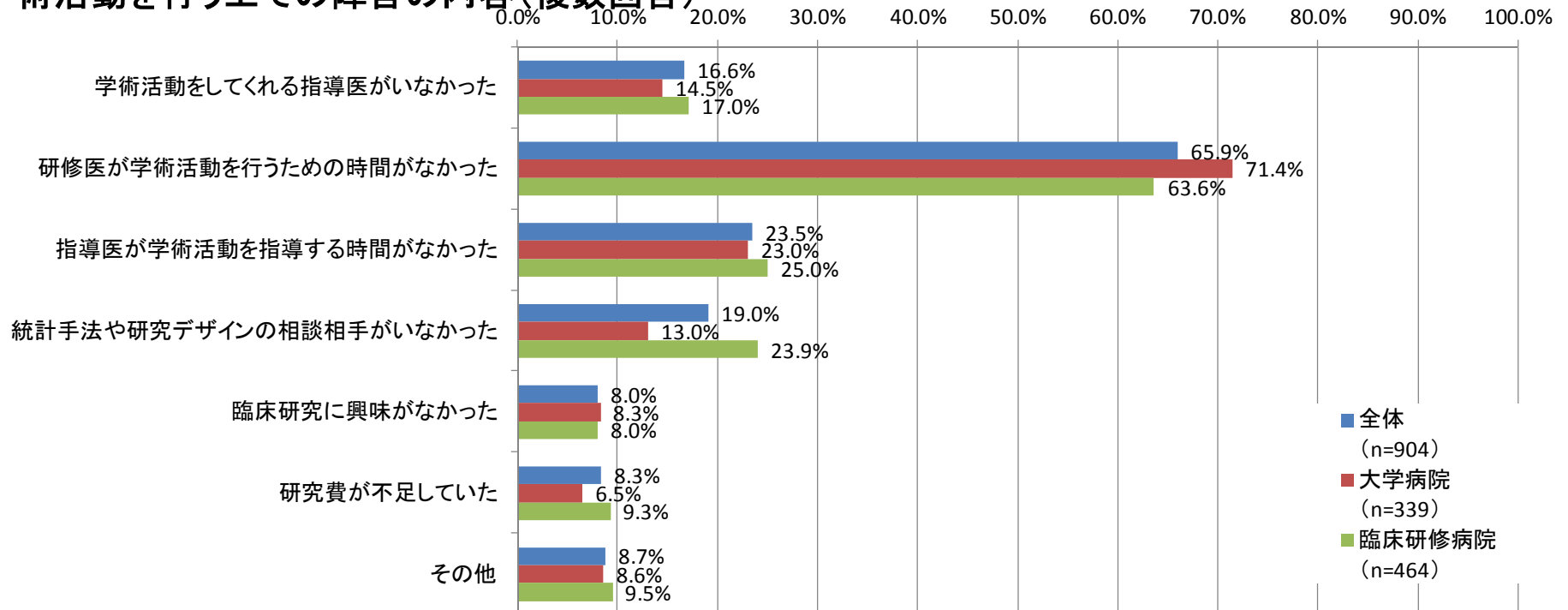
※1 「全体」には、臨床研修を行った病院の種別が不明であった者も含まれる。  
 ※アンケート①のみの調査項目である。

# 学術活動を行う上での障害

## 学術活動を行う上での障害の有無



## 学術活動を行う上での障害の内容(複数回答)



※1 「全体」には、臨床研修を行った病院の種別が不明であった者も含まれる。  
 ※アンケート①のみの調査項目である。